

民法ヲ書キ直ニテ佛國ニ住居ヲ定メ又ハ商業ニ関スル云々ハ訴訟法第何條ヲ見ルヘシト書キ訴訟法ニ於テ委シク書ク可キナリ  
故障ヲ述フル方法ハ第百六十八條ニアリ此條ノ始メニ毘米亞細亞等ノ區別ナク惣テ外國人ト書イテアリ

然ルニソノ取除アリ何トナレハ各國ノ條約ニヨリテ「ベルシツク」スエス「イタルイヤ」此三ヶ國ハ條約ニヨリテ受人ヲ立ツルニ及ハス

### 司法省

「サルデーニ」ハ佛ニ隣セル小國ナリシカ「イタルイヤ」ニ併セラレタリ  
ソノ併セラレタルニ付キ「イタルイヤ」ノ全國ニ此法ヲ及ホスヘキカ又ハ元トノ「サルデーニ」ノミニ用ユヘキカヲ論シタルニ巴里ノ控訴裁判所ニテハ「元トノ」サルデーニノミニ用ユル方ト定メタリ  
以上ノ三ヶ國ハ佛ニテ受人ヲ用ユルニ及ハサルヲ以テ佛人ノ此三ヶ國へ行クモノモ受人ヲ用ヒサルヲナリ

此三ヶ國ハ佛ニ隣セル國ナルユヘ日々訴訟モ



少ナカラス受入ヲ立ツルニ及ハサルトトス  
此法ハ大抵コートノ出来ル頃ヨリ始マリタリ  
ロイス<sup>ト</sup>十八世王政復古ヲナシタルトキナリ  
此事ヲ何ノ為メニ為シタルト云フニ「ロイス」十  
八世ノ頃ニ外人ニ地所ヲ賣ルコトヲ許シ金ノ多  
ク入ルコトヲ欲シタリ

右ニ付キ物件取戻シノ容易ニ出来ル為メニ此  
法ヲ設ケタルモノナリ

ソノ次ニ至タル原告ノ訴訟ヲ助ケルトハ外ヨ  
リ出テ原告ノ權ヲ保護スルモノヲ云フナリ

### 司法省

之レハ訴訟ノ起リタル後ニ出来ルコトナリ

助ケト云ヒテ仲ニ入ルコトハソノ正條アリ仍テ  
茲ニ委シク説カス

被告人ヨリ要メヲ受クルトキハト書イテアリ  
之レハ元ヨリ裁判所ヨリ云付ケルコトニハアラ  
ス何トナレハ之レハソノ一人ノ益ノミニテ一  
般ノ公益ニアラス故ニ要ムルトキハ之レヲ言  
付ケルナリ

此ノ如キ次第ナルニ代書師ナカル可カラス  
之レハ被告人ノ代唇師ニテ要メサレハカラス



万一被告人ノ代書師ニテ要メサルトキハ被告  
人ノ代書師ニソノ責アリ

訴訟ノ故障ヲ述フル前ニトアリ

訴訟ヲ述フルニ種類アリト云凡此條ニ説ク所  
ロヲ第一ニ述ヘサル可カラス

万一一度ニ此支ヲ止メテ外ノコヨリ着手ス  
ルトキハ此事ハ為スコヲ得サルナリ

此條ノ説キ了ラサル前ニ議論アリ外國人ト外  
國人ト訴訟ヲ為ストキハ受人ヲ立ツヘキヤ又  
ハ佛人ノ被告人トナリタルトキノ特權トナス

### 司法省

ヘキヤ

一般ノ説ニハ外國人ト外國人トノコナラハ受  
人ヲ要ムルノ權ナシト云フ説ナリ佛ノ裁判所  
ノ説モ同シ

ホアツリアート案スルニ一般ノ説ハ法律ニ悖リ  
且ツ法律ノ意ニ悖ル

元来原告人ニ請人ヲ立テシムルハ被告人ノ難  
儀ヲ救フ為メ立テタルモノナリ然ラハ外國人  
ナリトモ佛人ナリトモ同シキニアラスヤ

佛ニ住スル外國人ハ聊カノ違ヒハアル凡佛ノ氏



推ヲ受クルトアルニ外國人ノ、コハ此條ニ取リ  
除クルト書キテナシ

然ラハ外人モ區別ナカル可シ

尤モ此條ニ佛人ニアラサレハナラス書イテア  
レハ格別ナレモ書イテナキ上ハ此條ノ意ニア  
ラス

元ヨリ外國人タリトモ佛國ニ住居スルモノハ  
同シク保護セサルヘカラスソノ外國人ニ對ス  
ル外國人ノ原告人ノ逃ケタルトキハ被告ノ外  
國人ノ迷惑トナル此ノ如キ偏頗ノ取扱ヲナス

### 司法省

ノ理ナシ

タトヘハ日本人佛ニアリテ孛人ヨリ訴訟ヲ受  
タルトキ孛人ノ理立タスシテ孛人ハ逃ケ去リ  
タリ然ルトキハ日本人ハソノ入費ノ損失ヲ受  
ク佛ニテ外國人ノ日本人ニ此ノ如キ損失ヲ生セ  
シムルハ為スヘキコナラス仍テ外國人ノ原告  
人トナルトキモ請人ヲ立テシムル方宜シト思  
フナリ

仍テ日本ニテ日本人被告人ニテ外國人ノ原告  
人ニ請人ヲ立テシムルコアラハソノ被告人外



國人ナルトキモソノ原告タル者外國ナラス共  
受人ヲ立テシムル方ナリト思フナリ

### 第百六十八條

此條ハ裁判所ノ權内ニアラサルヲ以テ故障ヲ  
述フルコト云フ

裁判所ニテ何レノ裁判所へ出ツヘシト云ヒテ  
受理セサルトキト又此事件ハ此裁判所ノ權内  
ニアラスト云ヒテ取り上ケサルトキトアリ  
右ニ付テ四ツノ場合アリソノ時ニハ裁判所ニ  
テ取り上ケス

## 司法省

ソノ内ノ二ツハソノ裁判所ノ權内ニアラサル  
ヲ以テ取り上ケス

第三ハ他ノ裁判所ニテ訴訟ノ既ニ始マリテ居  
ルモノヲ此裁判所へ訴へ来リタルトキナリ

第四ニハ既ニ他ノ裁判所ニテ起リタル訴訟ヲ  
此裁判所へ持テ来ルトキソノ支件ハ他ノ裁判  
所へ牽連スルヲ以テ他ノ裁判所ニアラサレハ  
受理スルヲ得サル為メニ此裁判所ニテ取り上  
ケス

以上四ツノ内三ツハ原被告人ヨリ申立テ若シ



カラス

之レハ一般ノ公益ニ関スルヲナルニハ原被ハ  
勿論檢事ヨリ申立ツ

万一申立ナキトキハ裁判所ヨリ書付ケシテア  
リ

第一ニ被告人ノミニアラサレハ言ヒ出スコトヲ  
得サルコトアリタトハ人權ニテ訴ヲナスハ被  
告人ノ住所ノ裁判所ナルコトハ定マリタルコトナ  
リソノトキハ裁判所ノ違ヒタリト故障ヲ述フ  
可シ

### 司法省

遺物相續ノトキハ死人ノ住所會社ノトキハ會  
社ノアル地ノ裁判所ナリ仍テソノ混雜ヲ生ス  
ルコトハ澤山アリタトハ人ノ住所ヲ換ユルニ  
一々知ルコトヲ得サルコトアリ間違トナルコト多シ  
一般被告人ハ被告人ノ住所裁判所ト定マリタ  
ルコトナレハ間違ハナケレトモ遺物相續又ハ會社等  
ノ一般ノ法律ノ取除アルニハ間違トナル  
契約ニヨリテ仮リニ住所ヲ定ムル等ハ間違多  
シ

ソノ法律ヲ取除ケノアルコトニ付テハ代書師ハ



間違ハナキモノナレ凡人ヲ住所ニ轉シタルニ付テハ間違アリ

被告人ノ呼出タサレサル可キ所ノ權外ノ裁判所へ呼ヒ出タサレタルトキハ第一ニ故障ヲ述ヘサル可カラス

初件ノトキハソノ所在ノ裁判所ナルコトハ原則ナリ然ルニ被告人住所ノ裁判所へ呼ヒ出サレタルトキハ直子ニソノ間違ヒナルコトヲ言ハサルヘカラス

住所ヲ間違ヘ又ハ物件所在ノ違ヒタル呼出ス

### 司法省

コトハ一般ノ公益ニナラス一己ノ私益ナルコトハ被告人ヨリ故障ヲ述ヘサルトキハ裁判所ニテハ之ヲ其俵受理スルナリ

此違ヒタルコトヲ佛ニテハ人ニ對シテノ違ヒト云フ

之レハ辞ノ足ラサルナリ住所ノ違ヒタルモ物件所在ノ違ヒタルモ共ニ人ノ違ヒト云フハ不當ナル辞ナリ

人ノ利益ニ於テノ權外ト云ヘハ宜シ人ノ違ヒトノ云フトキハ言葉廣キニ過クルナリ之レ



ハ被告人ノミノ違ヒナレハナリ

第百六十八條ト百六十九條

此百六十八條ノ文ノミニテハ少シク辞ノ足ラ  
サルヲ覺フ何ノ為メト云フ辞アルヘシ

物權入權ニ係ハラスト云フ方ヨロシ

末文ニ為スイヲ得ヘシトアルハ被告人ノ随意  
ニテ訴ヲ為ス凡為サ、ルモ勝手次第ト云フ意  
ナリ

管轄ニアラサル裁判所ニ呼ヒ出サレタルモノ  
ハノ意ナリ

### 司法省

第百六十九條ノ末文ニハ前條ノ訴ヲ為ス可シ  
トアルハ勝手次第ニハアラス必ラス之レヲ為  
ス可シト云フ意ナリ

第二ノ權外ト云フイハ訴訟ノ事件ノ違ヒタル  
イヲ云フ

ソノ例ヲ擧ケシ

商吏裁判所へ訴へ出ツヘキヲ民事裁判所へ訴  
へ出テタルトキノイヲ云フ之レニ反スルモ亦同  
シ

行政裁判所へ訴へ出ツヘキヲ司法裁判所へ訴



へ出テタルモ亦同シ

刑事ニ訴フヘキテ民吏ニ訴フルトハ稀ナルト  
ナレ凡事ニヨリ検事ニテ聞違ヒタルトキモ同  
シ

第二ノ取口ナレハ訴訟事件全ク違フユヘ裁判  
取ニテ知ラサルヘカラス

第一ノ分ハ人違ヒユヘ裁判取ニテハ知リ難シ  
此事件ノ違ヒハ裁判取ニテ知ラサル可カラズ  
之レハ公益ニ係ルトナレハ商事ハ商事民事ハ  
民事各々手慣レタル裁判取ニテ受理スヘキナ

### 司法省

リ

第一ノ人ノ違ヒハ第二ノ事件ノ違ヒトニ付テ  
三ツノ違ヒアリ

人ノ違ヒハ被告人文ケノ違ヒナリ吏件ノ違ヒ  
ハ原被並ニ検事ヨリ訴ヘテ告シカラス之レ一  
ツナリ第二ノ違ヒハ前條ニハ初ノニ云ハサル  
ヲ得スト云ヒ事件ノ違ヒハソノ裁判ノ終リマ  
テハ云フテ得ルト云

第三ノ違ヒハ原被並ニ検事ヨリ云ハサレハ裁  
判取ニテ之レヲ云フ



第百七十條

若シ本人之レヲ求メサル云々ハ原文ニハ若シ  
之レヲ求メサルトキハト書キテ誰ト云フコトヲ  
各イテナシ之レハ法律ノ欠ケナリ

余ハ原被告並檢事ト書クヘシト思フ併シ誰レ  
ト書カストモ害ハナシ

何トナレハ檢事ハ公益ニ関スルコトハ皆ナク  
モノナレハナリ

只今説ク所コトハ又ノ違ヒ事件ノ違ヒノ二ツナ  
リ

司法省

後ノ二ツハ法律ニ欠ケテアルコト前ヨリ甚シ  
第百七十條第百七  
十一條ヲ云フ

訴訟法ヲ編ム可シト云フトキハ裁判官代官  
先ニ生徒ノ為メニ此邊ヲモ了解シ易キ様ニ記  
スヘシト思フナリ



司法省



訴訟法會議筆記

七年十二月廿五日

司法部



七年十二月二十五日

過日ニツノコトニ付テ一ツノ裁判所ヨリ他ノ裁判所へ送ルコトヲ説キタリ

第一ニハ人ニ付テ裁判所ノ管轄ノ違フコトナリ

第二ニハ事件ニ付テ裁判所ノ管轄ノ違フコトナリ

初メノ人ニ付テ裁判所管轄ノ違フコトハ被告人

ノ住所ニ呼出スヘキモノヲ他ノ裁判所へ呼

出シタルトキナリ

又一ツハ物件所在ノ地ノ裁判所へ呼出スヘキ

モノヲ他ノ裁判所へ呼出シタルトキ人ニ付

### 司法省

テノ權外ト云フコトナリ

人ニ付テノ權外ハ全クソノ人ノ益ニテ私益ナ

リ仍テソノ人ヨリ外ハ權外ノコトヲ訴フルコ

ト得ス

第二ノ訴訟事件ニ付テ裁判所ノ權ノ違フコトハ

原被並ニ檢査ヨリ訴ヘサルヘカラス

若誰ヨリモ訴ヘサルトキハ裁判所ヨリ公然申

渡シテ可ナリ

其件ニ付テノ權外ノ其ハ裁判ノ始マヨリ終

リマテニ訴ヘテ可ナリト虽凡人ニ付テノ權



外ノコハ始メニ訴ヘサルヘカラス猶ニツノ  
コヲ説キ残シタリ第一ニ既ニ一ツノ裁判所  
ニ於テ起リテアルコ第二ニソノ訴訟ニ添タ  
ル訴訟ノコハ未タ説カス「リチスパンタン」訴訟  
ノコ起ツテ居ルト云フコナリ精シクイヘハ  
一ツノ裁判所ニ於テ訴訟ノ起リテアル最中  
ト云フコナリ  
既ニ一ツノ裁判所ニ訴ヘタルコヲ又他ノ裁判  
所ヘ訴フルトキハ一ツノ事柄ニシテ種々ノ  
裁判トナルナリ

### 司法省

此ノ如キ不都合ハ避ケサルヘカラス同要件ノ  
訴ヲニツノ裁判所ヘ訴フルハ意外ノコト思  
ハル、ト虽ヒマ、アルコナリ  
人權ト物權ト相混シタル訴訟ハ何レニ於テ訴  
ヲ為ストモ可ナルニ付テハ一方ノ裁判所ヘ  
訴ヘ意ノ如クナラサルトキハ又一方ノ裁判  
所ヘ訴フルコアリ  
被告人數人アルトキ一ツノ裁判所ヘ訴ヘ出テ  
タル上他ノ原告人ノ意ヲ以テ更ニ他ノ裁判  
所ヘ訴フルコアリ



原告人ニテ被告人ヲ相当ノ裁判所へ呼出サス  
ニ他ノ裁判所へ訴へ出テタルトキ故障ヲ云  
ハサルヲ以テ既ニ裁判ヲ仕掛ケタリ然ルニ  
原告人ニテ更ニ相当ノ裁判所へ訴へタリ  
之レ一事件ヲニツノ裁判所へ訴フル場合ナリ  
此時ハ故障ヲ述ヘサルヘカラスソノ故障ハ何  
時ニ述フルトナルニ法律ニ於テハ一ツモ其  
時ヲ云ヒタルモノナシ

元トヨリ一事件ヲニツノ裁判所ニ訴フルハ人  
民公益ノ害トナル莫ユヘ成リ丈ケ防カサル

### 司法省

ヘカラス仍テ前ニ云フ如ク原被告人共ニ檢  
事ニテ訴ヘテ宜シカルヘシ万一此三人ノ云  
ハサルトキハ裁判所ニテ言渡シテヨロシト  
思フナリ

故障ヲ云フ時間ハ始メ訴ノ起ルヨリ裁判ノ終  
ルマテハ述テ苦シカラスト思フナリ

問 右ノ場合ニ於テ裁判所ニテ氣ノ付カサル  
トキハ如何

答 既ニ一ツノ裁判所ニテ裁判ヲ仕掛ケタル  
モノヲ此裁判所へ訴へテ来リタルトキ裁判



所ニテ気ノ付キタルトキハ直チニソノ仕掛  
ケタル裁判所へ移スナリ

一ツノ裁判ノ始マリ居ルモノへ牽連スヘキモ  
ノヲ説カントスマ、前ノコトニ似タルコトナリ  
今追説キタルモノハ全ク一ツノ事件ナリ今説  
ク所口ハ牽連シタルモノニテ之レヲ離シテ  
裁判スルトキハ甚不都合ナルモノナリ  
タトヘハ東京ノ裁判所ニ於テ貸金ノ元金ノコ  
ヲ訴ヘ又ソノ利金ノコトヲ大坂ノ裁判所へ訴  
ヘタリ

### 司法省

右ノ如ク利金ノ事ヲ離シテ訴フルハ不都合ナ  
ルナリ元来元金ナケレハ利金アルナシ然ル  
ニ其訴ヲ大坂ニテ知ラスレテ受理スルトス  
ルトキハ元利ノ裁判區々ナリテ不都合ナリ  
又一例ヲ舉リ

コトニ一ツノ契約ヲ為スニ一方ハ丁年一方ハ  
幼年ナリソノ丁年者ニテソノ義務ノ執行ヲ  
東京裁判所ニ訴ヘタリ然ルニ幼年ノモノニ  
テハソノ契約ノ取消ヲ大坂ノ裁判所へ訴ヘ  
タリソノ時丁年ハ東京裁判所ニテ勝テ幼年



ハ大坂裁判所ニテ勝チタリ之レハ相牽連シ  
タルモノユヘニツノ裁判所ニテ受理スルハ  
不都合ナリ人民ノ公益ヲ害スル許多ナリ今  
ノ義務ヲ東京裁判所ヘ訴ヘタルトキハ之レ  
ヲ行ヘト裁判シ大坂裁判所ヘハ取消ヲ訴ヘ  
タルニ付キ取消ノ裁判ヲ為ス

元利ノコニ付テモ同シ元金ノコヲ東京裁判所  
ヘ訴ヘツノ金ヲ拂フヘシト裁判シ大坂裁判  
所ニテハ此金ハ既ニ拂ヒタルニ付利金ヲ拂  
フニ及ハスト裁判スルナリ仍テ不都合トナ

### 司法省

ルナリ之レハ必ラス同一ニ裁判スヘシト云  
フニハアラス気ノ有キタルトキハ同一ニナ  
スヘキナリ

此牽連ノ訴訟ハ誰レヨリ訴ヘテ可ナルヤ

被告人ハ元ヨリ便利ナルコトナルユヘ必ラス為  
ス可レ併シ被告人ノ氣付カサルトキハ原告  
人ニテ之レヲ為ス併シ造意ニテ原告ノ言ハ  
サルコトモアルヘシソノトキハ檢事之レヲ言  
フヘシ

ソノ故障ヲ述フル期限ハ始メヨリ終リマテ言



フヲ得ヘシ

第百七十一條ニハ誰ヨリ何時マテニ云フトハ  
書イテナレト虽氏人民ノ公益ニカ、ルヲナ  
ルユヘ前條ト同シキモノト見做スヲ得ル  
ナリ

第百七十一條原文記入ス可シ

牽連シタル訴訟ハ自然同一ノ裁判所へ出テ居  
ルモ料ルヘカラス

タトヘハ東京裁判所ノ第一局ニ元金ノヲヲ訴  
ヘソノ第二局ニ利金ノヲヲ訴ヘテ居ルヤモ

### 司法省

知ルヘカラス

第百七十條ハ書キ方ヨロシカラス

又ハ云々以下ノヲハ同裁判所ニテ起ルモ又他  
ノ裁判所へ起ルカモ知ルヘカラス故ニ此ノ  
如ク書キテハヨロシカラス

今日東京裁判所へ元金ノ訴ヘテ為シ又一ヶ月  
ヲ過キテソノ利金ノ訴ヲ為スヲアルヘシ  
ソノ時ハ初メソノ元金ノヲヲ扱ヒタル局へ送  
ラサルヘカラス

タトヘハ甲乙ノ家ヲ借リタリ然ルニ大風ニテ

アシユタレ  
裁判中ノ難事  
ヲ惣テ云フ廣  
キ字ナリ



破レタルニ付キ甲ヨリソノ修覆ノコトヲ訴ヘ  
タルニ乙ニテハソノ大風ノ時甲ノ住居セサ  
ル間ノ家賃ヲ訴ヘタリ事柄ハ違ヒタリトモ  
相牽連スルモノナリ

此條ノ末文ニ訴ヲ為スコトヲ得ヘシトアリ之レ  
ハ義務ニアラス願ヒテヨロシキナリ

我カ論スル所口ハ誰ヨリ願フコトヲ書イテナキ  
キ付キ原被告檢事ヨリ願ヒテ可ナリト増補  
スヘシ更ニ何時ヨリ何時マテハ願ヒテ可ナ  
リトソノ時限ヲ書カサルヘカラス

### 司法省

同事件ニシテニツノ裁判所ニテ起リタルコトヲ  
説カントス

若シソノ事件控訴ノ為スコトヲ得ルトキハ控訴  
ヲ以テ之レヲ補フヘシ

ニツノ裁判言渡ニ於テ一ツノ方ハ控訴シ一ツ  
ノ方ハ控訴セス

東京裁判所ニテ裁判ヲ受ケタルモノ控訴ヲ為  
シテ又負ケタリ

大坂ノ原告人ニテ大坂裁判所へ訴ヘタリ然ル  
ニソノ原告人ハ負ケタリ之レハ控訴セス



以上ノカヲ更ニ言ヒ直ニサシ更ス言ヒ直サント  
ス

同一ノ事件ニシテ東京大坂ノ両裁判所へ訴へ  
タリソノトキ甲ハ原告人ニテ乙へ係リテ訴  
ヲ為シ勝チタリ乙ハ控訴シテ又負ケタリ甲  
ハ大坂裁判所へ訴へテ負ケタリ而シテ控訴  
セス

東京ノ被告人ハ東京ノ上等裁判所へ訴へテ負  
ケタリ甲ハ大坂ノ上等裁判所へ訴へテ又負  
ケタリ

### 司法省

然ルニ双方トモニ故障ヲ言ハスシテ止ミタリ  
ソノ時此裁判ハ一方ニテ始マリテアルコトヲ氣  
付クトキハ害ナシ

然ルニ何レトモ氣付カスシテ居リタリ  
東京ニテ控訴シタルニツキ元ヨリ確定ノ裁判  
トナリテ動カスヘカラサルモノナリ大坂モ  
確定ナリ

兩方トモ確定ニシテ及對ナリ之レヲ補ハサル  
ヘカラス

若シ控訴スヘカラサル事柄ニシテ此ノ如ク及



對スルトキハ連カニ補ハサルヘカラス

ソノ補ヒハ訴訟法第五百四條ニアリ

ソノ時ニハ初告裁判所ノ言渡ニモセヨ控訴裁判所ノ言渡ニモセヨ之レヲ覆審院へ出スナリ

ソノ時ハ覆審院ニテ之レヲ双方トモニ破毀スルナリ

而シテ後双方ノ關係セサル他ノ裁判所へ移シテ更ニ裁判ヲナスナリ

以下牽連シタルコトヲ説カントス

### 司法省

牽連シタル裁判モ上等裁判所ニテ補フコトヲ得サルトキハ覆審院ニテ破毀ス

若シ同一ノ裁判所ニテ各異ノ裁判ヲナシタルトキハレケートシヒルヲ以テ即チソノ裁判所へ願フナリ

訴訟法第四百八十條ノ第六ニアリ

レケートシヒルトハ丁寧ニ願フト云フ意ナリ  
敬慎ノ願書ト云フ傲慢ナラスレテ恭敬ヲ尽スコトナリ別ニ一局アルニアラス

之レ裁判ヲ取直ス非常ノ道ナリ



第百七十二條

之レハ故障ヲ申立タルトキハ直チニ之レヲ裁  
判セサルヘカラサルヲ云フ

ソノ他ノ難事ノ起リタリトキハ之レヲ取調ヘ  
テ裁判ヲ為サント云フト虽此故障ニ至リ  
テハ直チニ之レヲ止ムルトモ又續イテ裁判  
スルトモ一方ニ決ス

タトヘハ初メ代書師ニテ始末書ヲ出シタル上  
更ニ申立アルトキハ初メノ始末書ノ事ト後  
ノ申立トヲ一同ニ裁判スルト虽此故障ハ

司法省

直チニ裁判セサルヘカラス



司法省



訴訟法會議筆記

一月二十六日

司法省



第三卷

呼出状及ヒ其他訴訟手續ノ  
書類ヲ取消ス可キ訴

第百七十三條

總テ呼出状又ハ裁判手續ノ書類ヲ取消セント  
スル訴ハ裁判所ノ管轄具ナルニ付キ其裁判  
所ノ吟味ヲ受クルニ故障ヲ述フルヲ除クノ  
外總テ論辨ヲ為シ又ハ訟訴ニ付テノ故障ヲ  
述フル前ニ之ヲ為スヘシ但シ其後ニ至テハ  
之ヲ為ス丁ヲ得ス

法律上ニ於テタトヘハ呼出状ニ何々ノヶ條ヲ  
書キ落セハソノ呼出状ハ効ノナキアリソノ

司法省

丁ニ付故障ヲ述フルエキセフシヨシノ丁ヲ  
説ク条ナリ

取消ヲ為スハ訴ヘテ聽カス裁判官ヨリ直ニ言  
渡スモノニアラス必ス一方ノ者ヨリ之レヲ  
訴ヘ取消ヲ求メサルヘカラス之レヲナスハ  
訴訟ノ前ニ言フナリ

之レハ公益ニ関スル丁ニアラサルヲ以テ檢事  
モ原告人モ言ハス被告人ニテ言フヘシ  
タトヘハ答辯書ノ如キモノニテ被告人ニテ答  
キタルモノニ於テ法律ニ違ヒタル答キ方ナ



ルトキハ原告人ヨリ申立テ取消シテ亦ムル  
ナリ

訴訟ノ始メニ之レヲ申立テサレハ其権消滅ス  
ルナリ

之レヲ訴訟ノ始メニ言ハサレハカラサルハ尤  
ヨリナリト雖モソノ呼出状ハ法律ニ違ハス  
シテ訴訟トナリタル上答辯書ヲ法ノ如クニ  
答カサレトキノ取消ハソノ答キ付ノ出テタ  
ルトキニ申立ツルナリ

### 司法省

如シ裁判言渡書ノ法ノ如クナラサルトキハ直  
チニ申立ツルナリ得スソノ時ハ控訴シテ申  
立ツルナリ

三ツノ故障アリ

第一ニ外國人ノ訴訟ヲ為ストキ請人ヲ立ツル  
ナリ

第二ニ裁判所ノ管轄ノ違フナリ

第三ニハ取消ノナリ

併シ右ノ通りニ行カサルナリ  
タトヘハ三人同シク行クニ三人一同ニ門ニ入  
ルナリ能ハス



之レト同シク以上ノ三ツノ故障ヲ一同ニ申立  
ツルヲ能ハス

此條中ニ裁判所ノ管轄異ナル云々トアルニツ  
キ裁判所ノ管轄違フヲハ第一ニ求メ取消ノ  
ヲハ第二ニ求メサルヲ得ス

如シ外國ノ原告人トナリタルトキト裁判所ノ  
管轄ノ違フト抵触スルトキハ先ツ請人ノ  
ヲ求メ次ニ裁判所ノ管轄ノ違フヲ云フヘ  
シ何トナレハ是レ被告人ヲ保護スル為メナ  
レハナリ

### 司法省

裁判所ノ管轄ノ違フヲハ容易ニ云フヲ能ハス  
取調フルニハ取調間ヲ費ヤスナリ故ニ先ツ請  
人ノヲ以テ其入費ノ補ヒヲ付ケサルヘカ  
ラス仍テ請人ノヲ第一ニ求ムヘシ  
如シ請人ノヲ取消ノヲト抵触シタルトキモ  
亦即チ請人ノヲ先キニ求ムヘシ何トナレ  
ハ取消ノヲ付テハ入費ヲ要スルユヘ先ツ  
請人ノヲ求メ若シ外國原告人由ニシテ其  
入費ヲ納メサルハ其請人ヲシテソノ入費  
ヲ補ハシメル為メナリ



法律家ニテ此三段ノ順序ヲ立ツルニ付キ若シ  
三ツノ故障一敗ニ抵觸スルトキ一命ニ三ツ  
ノ故障ヲ認メ求ムルトモ妨ケナシトスヘシ  
之レマテ説ク如クハ肝要ナリト思フナリ  
又訴訟中ニ前ノ三ツノ故障出来シテ之レヲ順  
次ニ解アサルヲ得サルノ例ナリ  
其例ヲ挙ケテ解カントス  
外国人原告人トナリ仏人ニ對シ訴ヲ為スニ  
ソノ呼出狀ニ代書師ヲ立テタル丁ヲ昏カス當  
轄ノ異ナル他ノ裁判所ニ出シタリ

### 司法省

是レ三ツノ故障ナリ

ソノ外国ノ原告人ノ求ムル丁ハ商法ニ付テノ  
訴ニモアラス又佛ニ住所ヲ定メタル外国人  
ニモアラス

其敗ハ被告人ヨリ請人ヲ立ツル丁ヲ第一ニ求  
ムヘシ

民事ノ訴訟ニ付代書師ヲ立ツルハ佛ノ規則ナ  
リ

然ルニ原告人ニテ之レヲ立テス之レニツノ故  
障ナリ被告人ノ裁判所ノ異ナル之レ亦故障



ヲ云ハサルヲ得ス之レ三ツナリ  
三ツノ故障ハ何レヲ先キニ云ハトノ順序ハ法  
律ニ昏イテナシ

元来三ツヲ一時ニ云フカ又ハソノ順序ヲ立テ  
サルヘカラス請入ノ条々ニモ惣テ其余ノ故  
障ノ述フル前ニトアリ管轄ノ述フル裁判  
所ノ條ニモ惣テノ故障ヲ述フル前ニトアリ  
第百七十三條ニ裁判所ノ管轄ノ述フニ付云  
々ト昏イテアリソノ順序ノ丁ハ一切云ハサ  
リシ

### 司法省

此取壊子ヲ以テ真似ヲ為シタリ

ソノ三ツノ外ノ故障ト此次ニ訴訟ノ猶豫ト云  
フ丁アリ

日本ニテ法律ヲ立ツルトキハソノ三ツノ順序  
ヲ明瞭ニ昏クカ又ハ三ツヲ一紙ニ昏ク丁ニ  
定ムルカニ為スヘシ一帛ニ書キタリトモ少  
シモ害ナキ丁ト思ハル、ナリ

ホアソナト案スルニ此訴訟法ヲ改正スルノ  
仕方アルヘシト思フナリ

之レヲ考フルニ何ノ為メニ訴訟ノ始メヨリ終



リマテ何時ニテモ請人ヲ立ツル丁ヲ許サ、  
リシヤ

請人ハ尤ト被告人ヲ保護スル為メノモノナリ  
然ラハソノ外国人ノ信スヘカラサルトキハ始  
メニ之レヲ求メル丁固ヨリナレ氏始メソノ  
人ヲ信スルニ定ル者ナル片ハ請人ヲ立ツル  
丁ヲ求メストモソノ訴訟ノ羊ハニ至リ信ス  
ヘカラサルノ念起ルトキニ之レヲ立テニ丁  
ヲ求ル氏聊カ妨ケナシト思フナリ  
始メニ立ツル丁トナストキハ始メニ去ハサレ

### 司法省

ハソノ故障ノ権ハ消滅スルナリ故ニ始メヨ  
リ裁判ノ終リマテ何時ニテモ立ツル丁ヲ求  
ル丁ヲ得ルト定ムルトキハソノ訴訟ヲ終ル  
マテ請人ヲ立テサセスレテ済ム丁モアルヘ  
シ

併シ此法律ヲ立ツルトキ始メニ立ツル丁ト定  
メタルハ其訴訟ノ長引クヲ恐レタリト考フ  
ルナリ然レ氏訴訟羊ニ長引クモ始メ訴訟ト  
ナラサル前ニ長引クモ同シト考フルナリ  
此議論ハ我カ鄙見ヲ述ヘタルノミソノ便不便



ハ諸君ノ意見ニアルノミ

訴訟ノ始メニ請人ヲ立ツル丁ヲ言立ツハシト  
ナレハ十ノ九ハ立ツル丁ヲ云ヒテ一ハ云ハ  
サルモノモアルヘシ依シ何時ニテモ云フ丁  
ヲ得ルトナレハ十ノ内五ハ云ヒ立テサル丁  
トナルヘシ

裁判所ノ違ヒタル丁ヲ訴訟ノ年ハニ云フ丁ヲ  
得ルニ於テハ不都合多カルヘシ依テ之レハ  
始メニ為ス方ト思フナリ

昏類ノ違ヒタル丁モ始メニ為ス方ト思フナリ

### 司法省

問 請人ヲ訴訟年ニ立ツル丁ヲ求ル丁ヲ許ス  
上ハ万一被告人ニテ負訴訟ト思フニ始メ  
ニ立テサルトキ訴訟年ハニ至リ勝ちトナル  
ヘシト思フトキ原告人ニ負ケドナルヘシト  
思フナリソノトキ請人ヲ立ツル丁ヲ云フト  
モ原告人ニテハ之レヲ立テス依テ裁判モソ  
レ切リトナリタルニ付キ原告人逃走シタル  
トキソレマテノ入費ハ如何スヘキヤ

答 之レハ被告人ノ損失ナリ何トナレハ始メ  
ニ立ツル丁ヲ許サ・ルトキハ格別ナレ氏始



メニ立ツルヲ許ストキハ便利ナリ尤モ今  
ノ法律ニ於テモ前ノ場合ニ被告人ノ損トナ  
ルコトハ同シトナリ但シ干ハニ云フトナリ  
スハ便利ナリ到底被告人ノ好ミ次第ナリ  
第百七十四條

遺物相続人寡婦離婚セラレシ婦夫ト財産ヲ分  
ケタル婦ハ遺物相続ノ始リシ日又ハ財産ノ  
共通ヲ解キタル日ヨリ財産ノ目録ヲ記スル  
為メ三月ノ猶豫ト熟考ヲ為スタメ四十日ノ

### 司法省

猶豫トテ得テ其時間訴訟ノ猶豫ヲ求ムルト  
テ得ヘシ若シ又三月前ニ目録ヲ記シ終リタ  
ル時ハ其日ヨリ四十日ノ猶豫ノ期限ヲ算ス  
ヘシ

若シ三月内ニ目録ヲ記スルト能ハサルノ証  
アル時ハ更ニ相当ノ猶豫ノ期限ヲ加ヘ且熟  
考ヲ為スタメ四十日ノ猶豫ヲ許スヘシ但シ  
此事ハ至急吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判スヘ  
シ

遺物相続人ハ前ニ記シタル猶豫ノ期限ノ終リ



シ後ト雖モ通常ノ遺物相続人タル如置ヲ為  
サ、ル時又ハ控訴スヘカラサル裁判言渡ニ  
因リ通常ノ遺物相続人ナリト定メラレシ  
トキ時ハ尚ホ目錄ヲ記シテ且遺物ノ高ニ至  
ル迄ノ外負債ヲ償ハサルト推アル遺物相続  
人トナルノ權アリ  
ジラトハアール

（訴訴ノ期限ヲ定フル）  
此條ハ訴訟ノ猶豫ヲ願フトテ説キタルモノナ  
リ

### 司法省

原語ヲ以テ見レハジラールノレキセフシ  
ヨント云フトニテ即チ故障ノ部分ナリ  
之レハ訴訟ノ原意ヲ論スルニマラス未タ期限  
ノ来ラサルニヨリテソノ期限マテ述ヘル  
ヲ求ムルナリ

タトヘハ金ヲ六ヶ月ヲ過キタラハ返スヘキノ  
契約ナルニニヶ月ヲ過キテ債主ヨリ負債主  
へ催促スルニ負債主ニテ未タ期限来ラスト  
云フモノニハアラス右ノ次第ハ全クソノ願  
ヒノ立タサルトナリテ本主意ヲ破毀セラ



ル、ナリ

此等四卷ノ猶豫ヲ求ムル丁ハタトヘハ金ヲ借  
タルモノアルニソノ人死シタリソノ子ニテ  
財産目録ヲ作ルニ三ヶ月ヲ要シ又弥々相続  
ヲ為スト為サルトヲ定ムルニ四十日ヲ要  
スソノ期限ノ内ニ訴訟ヲ受ケルトキニハソ  
ノ期限ノ経過スルマテ猶豫ヲ述フル丁ナリ  
財産共通ノ夫婦ニテ夫ト死シ離婚トナリタ  
ルトキ財産ヲ分ツカ又其夫ノ相続人ト同シ  
ク共通スルカノ時ハ三ヶ月ト四十日ノ期限

### 司法省

ナリソノ期限内ニ其夫ノ義務ニ付訴訟ヲ受  
ケタルハ前ニ同シ佛國ニ於テハ夫ト死シ  
タルハ前ニ同シ於テハ夫ト死シ  
ナリ中古今ハ夫婦在世ニ離婚  
アレト今ハ之レナシ

財産目録ヲ作ル為メ三ヶ月ハ法律ニ定メタリ

ト金氏時ニヨリ二ヶ月ニテ済ム丁アリソノ  
トキハ二ヶ月ト為ス併シ熟考ノ四十日ハン  
ノマ、ナリ

尤モ速カニ取調ノ付キ又假相続等モナク通常  
ノ相続人トナリタルトキハ三ヶ月モ四十日  
モナシ



併シソノ時ニ許訟ヲ受ケタルトキハソノ許訟  
ヲ延ハス為メニ三ヶ月四十日ヲ経過セズト  
テ猶豫ヲ述フルモノアリ

ソノ時ハ原告人ニテソノ実事ヲ見テ既ニ相続  
済ミタリトテ許フルトアリソノ時ハ裁判官  
ノ見込ヲ以テ之ヲ決スルナリ

未タ相続ノ終ラサル内ニ人ニ家ヲ貸シタリト  
テ相続ノスミタルト為ストテ得ス之レハソ  
ノ財産ヲ融通スル為メニナシタルノミナリ  
タトヘハ畠ニアル麦ヲ收メタリトテ相続ノ済

### 司法省

ミタリト為ストテ得ス之レハソノ収納ヲ取  
上ケテ之レヲ支配スルノミナリ

然レ氏ソノ腐敗スヘカラザル品ヲ賣リタルト  
キハ之レヲ相続シタリト見做ス

中ニ就テ不動産ヲ賣リタルトキハ相続ノ済ミ  
タリト見做スナリ

死人ノ為メニ財産ヲ賣リテ至急ニ金ヲ拵ハサ  
ルヲ得サルトアリ

ソノ時ハ相当ノ日限掲示ヲ為シテ賣リタルト  
キハ相続トハ見做サス之レハ財産丈ケノ相



続ト見做スナリ

此條ノ第三項ハ民法遺物相続ノ編ニ入ルヘシ  
訴訟法ニ入ルヘキモノニアラス

此条書キ方ヨロシカラス

如シ民法ニ定メタル目錄ヲ依ル期限ト熟考ノ  
為メノ四十日ノ期限ノ前ニ訴ヲ受ケタルト  
キハ猶豫ヲ求ムル丁ヲ得ルト存ケハヨロシ  
遺物相続人云々ハ民法ニ委シ此所ニ存クニ及  
ハス

佛ニテハ父ノ負債ヲ子ニテ尽ク拂ハストモヨ

### 司法省

ロシ父ノ財産ヲケテ相続スルモノアリ又ハ  
通常ノ相続人アリ又ハ一向ニ相続ヲ断ハル  
モノアリ

万一父ノ財産ヲ賣リテソノ金ヲ我カ所有トナ  
シタルトキハ之レヲ通常ノ相続人ト見做ス  
財産共通ヲ為シタル婦ニテ死シタルトキハ三  
ケ月ノ猶豫ヲ與ヘス何トナレハ夫ハ婦ノ始  
末ヲ存ケルモノナレハナリ

呼出状ヲ三ケ月四十日ヲ過キサルトキニ送り  
タルトキハ猶豫ヲ述ヘタルノミニテ其訴訟



ヲ中止シソノ期限ヲ過キタルトキハ再ヒ呼  
出状ヲ送ラスミテ裁判知へ出サルヘカラフ  
三ヶ月内ニ目錄ヲ依ル丁能ハサルハ再ヒ相  
当ノ猶豫ヲ述フルトアリ

熟考ノ四十日ハ延ハサス何トナレハ四十日ヲ  
過シレハ思慮定マルモノトスナリ

万一此期限内ニ物ヲヌアセハ即チ通常ノ相續  
人ト見做スナリ

前條々ニ述タル三ツノ故障ノ外ニ此猶豫ヲ述  
フルトテ合セテ四ツトナル

### 司法省

此四ツアルトキハ前ノ三ツノ故障ヲ先キニ求  
メツノ後ニ猶豫ノ丁ヲ求ムヘシ

如シ誤ツテ猶豫ノ丁ヲ先ニ云ヘハ三ツノ故障  
ハ消滅スルナリ

之レハ代書師ノ注意スヘキトナリ

此猶豫ヲ述フル各付ケハ裁判所當テナレ氏代  
各師ヨリ代書師へ送ル万一之レニ付一方ヨ

リ故障ヲ云フトキハ裁判所へ出ス如シ一方  
ニテ承諾スレハ裁判所へ出スニ及ハス

万一猶豫ヲ述ヘタリトモ一方ニテ物ヲ又カシ



タルトヲ見出シタルトキハ其効ナシ  
三ツノ故障アルトキ猶豫ノトヲ述ヘテ一方ニ  
テ承諾シタル上ツノ期限ニ至リテ三ツノト  
ヲ述ヘタルニツキ一方ノ代唇師ニテツノ故  
障ハ立タ、スト云フトキ一方ニテ云ヒ張ル  
トキハ裁判所へ出テ、裁判官ノ決ヲ取ルソ  
ノトキ裁判官ハツノ故障ハ立タスト言渡ス  
ナルヘシ

猶豫ノ故障ヲ先キニ云ヒツノ後ニ三ツノ故障  
ヲ順次ニ述ヘタルトキ原告人ノ代書師ニテ

### 司法省

承諾ヲ成タル上ハ即チ故障トナル

之レハ私益ニ係ルトナルユヘ裁判官ヨリ何ト  
モ言ハス原告人ヨリ言立テタルトキハ之レ  
ヲ裁判スルノミ

此次ノ故障ハガランチーノトヲ説カントス之  
レハ随分六ツケシキトナリ



司法省



訴訟法會議筆記 八年一月廿日

司法省

計



前會ニ第百七十五條第百七十六條ニ於テ若  
シ被告人ニテ保証人ヲ呼ビ出サ、ルヲ得サ  
ルトキハ八日內ニ呼出狀ヲ懸ケ若遠方ナル  
トキハ五「ミ」リヤメートル毎ニ一日ヲ増ス「ト」ヲ  
説キタリ

被告人如シ遠方ニ居レハ保証人ノ呼出サル  
ル期限ト同シク延引シ随ツテ保証人ノ出ツ  
ルモ延引スルナリ  
之レカ為メ猶豫ヲ与フル「ト」トス

### 司法省

過日始メハ呼出狀ヲ掛ケテ同日ニ出ツル「ト」  
ヲ言ヒ終リニハ聊カ一方ノモノ、延引スル  
ニ付猶豫ヲ與フル「ト」ヲ説キタリ  
然ルニ猶豫ヲ與ヘサルモ可ナル場合アリ

### 第百七十九條

若レ被告人ノ其保證人ヲ呼出スヘキ期日被告  
人ノ出席ス可キ期日ト同時ナラサル時被告  
人其出席ス可キ期日ニ至ラサル前ニ其保證  
人ニ呼出狀ヲ送リタル旨ヲ已レ、代書師ヨ  
リ原告人ノ代書師ニ書面ヲ以テ報告セシメ



タルニ於テハ被告人抗傳者タルノ言渡ヲ受  
クルコトナカル可シ

然レモ被告人保證人ニ呼出状ヲ送達ス可キ  
期限ニ至リシ後保證人ニ呼出状ヲ送リタル  
ノ證ヲ立テサル時ハ直チニ主タル訴訟ヲ裁  
判シ且ツ被告人保證人ニ呼出状ヲ送リタル  
ト述フル所偽リナルノ證アルニ於テハ被告  
人原告人ニ損失ノ償ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受  
ク可シ

呼出状ヲ同シク掛ケテ同シク出席ス可キヲ

### 司法省

知ラハ之レヲ推シテ同シク出席セサル場合  
アルコトヲ知ル可シ

如シ被告人モ保證人モ同シ裁判所ノ管轄ニ  
アルトキ呼出状ヲ受ケタル日直チニ保證人  
ニ呼出状ヲ掛ケタルトキハ即チ同日ニ出席  
スルコトヲ得ルナリ

過日説キタル過チハ八日内ニ呼出状ヲ出セ  
ハ同日ニ出席スルヲ得ルト云ヒタレモ送達  
ノ日一日後ルレハ一日ノ違ヒトナリテ同シ  
ク出席スルコト能ハス



同日ニ呼出状ヲ掛ルハ稀ナルコトナリ  
仍テ第百七十九條ニハ被告人ト保證人ト同  
日ニ出席スルコトヲ得サル時ノコトヲ云ヒタル  
モノナリ

ソノ同日ニ出席スルヲ得サルトキハソノ旨  
ヲ被告人ノ代書師ヨリ原告人ノ代書師へ報  
告シテ主タル訴訟ヲ一時延ハシテモラフコ  
トナリ

ソノ時ハ別段証據ヲ立ツルニ及ハズ書面ヲ  
以テ代書師ヨリ代書師へ報告スルヲ以テ足

### 司法省

レリトス

ソノ所以ハ箱館ノ如キ遠方ニ居ル保證人へ  
呼出状ヲ出シタル時其本書ノ来ルマテハ數  
日ヲ費ヤスソノ間ニ主タル訴訟ノ始マル期  
ニ至ルニヘソノ呼出状ノ寫ヲ原告人ノ代書  
師へ見セストモ可ナリト為スナリ

如レソノ相當ノ期日ニ至リテ保證人ノ出席  
セサルトキハ原告人ノ代書師ニテ裁判ヲ乞  
フナリ之レハ被告人ノ詐偽カ又ハ使吏ノ怠  
タリト見ルナリ



仍テ原告人ハ被告人ヨリリノ償ヲ取ルトト  
ス

此條ノ末文ニ至リ少レク文章ノ書キ方ヨロ  
シカラス

八日ノ期限路程ヨリ遠キ所口ニ居ル人ハ五  
「リヤメートル」毎ニ一日ヲ増スタトヘハ十五  
日ヲ要スル所口ナレハ呼出状ヲ受ケテヨリ  
出席スルニ又十五日ヲ費レ合セラ三十日ヲ  
要スルナリ

故ニ此文中呼出状ヲ送達スヘキ期限ニ至リ

### 司法省

レ後トアルハヨロシカラス此文ヲ以テ見ル  
トキハ始メノ十五日ノミヲ以テスル書方ナ  
リ

法律ノ意ハ此ノ如キ意ニハアラサルヘシ  
仍テ呼出状ヲ送達レテ保証人ノ出席スヘキ  
日ニ至ル迄ト書クヘシ

如レソノ期限ニ至リ保証人ノ出席セサルト  
キハ被告人ニテ保証人ニ呼出状ヲ送ラサリ  
シヤ又ハ詐偽ナリヤ又ハ被告人ノ善不善ニ  
關係セス主タル訴訟ノ延引シタル虞ヲ以テ



先ツ償ヲ出サシムルナリ。

第百七十七條○

被告人目錄ヲ記シ且熟考ヲナス為メノ猶豫ノ期限内ニ呼出ヲ受ケタル時ハ其期限ノ終リシ日ヨリ保證人ニ呼出狀ヲ送達ス可キ期日ヲ算フ可シ

此條ハニツノ期限ノ後レタル場合ヲ云フナリタトヘハ遺物相續ノ分配未タ終ラサルトキノコナリ

ソノ財産目錄ヲ作ルニ三ヶ月ト別ニ熟考ノ

司法省

為メ四十日間ハ猶豫ヲ与フルコトヲ云フナリ  
一説ニハ三ヶ月四十日ヲ過キテ呼出スヨリハ此三ヶ月四十日ノ間ニ保證人ヲ呼出スナラハ訴訟延引セスレテ可ナラント云フ  
然レモ法律ニ於テ能ハス何トナレハ三ヶ月四十日ヲ過キテ相續ヲ断ハルヤモ知ルヘカラサレハナリ

第百七十八條○

如何ナル事柄ニ付テモ被告人ノ幼年ナルコト又ハ其他ノ特權アル原由ヲ以テ口實ト為シ其



保證人ニ呼出状ヲ送達スルニ付キ前ニ記シタル以外ノ猶豫ノ期限ヲ得可カラス但シ主タル訴訟ノ裁判ハ其保證人其定期ノ終リシ後尚ホ出席セスト虽此之ヲ遅延ス可カラス唯其被告人ハ後ニ保證人ニ對シ訴ヲ為スノ權アリ

古昔ノ訴訟法ニテハ僧侶ト幼年ノモノニハ訴訟ノ期限長カリシカ新法ニ至リテ惣テ一般ノ法トナシタルナリ

### 司法省

レハソノ保證人ヲ呼出スコトヲ聞カサリシ自今ハ訴訟ノ半ハニテモ保證人ヲ呼出スコト勝手次第ナリ併シ之レカ為メ主タル訴訟ヲ延引スルコトヲ得スソノ訴訟ノ間ニ合ヘハヨロシ萬一間ニ合ハサレハ保證人ニ對シテ訴ヲ為スヲ得ル

之レハ元來被告人ニテ氣付カスレテ保證人ヲ呼ハサルナリ併シ氣付キタラハ何時ニテモ呼出スヲ得ル

モシ人ヨリ買ヒタル品ニ紛レアリテ人ヨリ



取り返へサルトキハ買人ヨリ賣り主へ對  
レソノ品物ノ代價ヲ取り戻スコトヲ得ル  
併シソノ保証人ニテ最初我レヲ呼へハ勝ツ  
ヘキモノヲ君之レヲ怠リテ呼ハサルノミナ  
ラスソノ主タル訴訟ニ於テ一々証據アリテ  
君ノ負訴訟トナリタルニ付イテハ我レハ之  
レヲ受ケスト云フナリ

問 此保証人ノ出席期限ニ後レタルハ抗  
拒スヘカラサル天災ニテ後レタリトモ用  
ニ立タサルヤ

司法省

答 ソノ天災ニテ延引セシコトノ知ルヲ得  
ヘキニ於テハ裁判所ニテ之レヲ待ツナリ  
ソノコト預カシメ知ルコトヲ得スレテ裁判ト  
ナリ負ケタルトキハ控訴スル事ヲ得ル事  
ナルトキハ控訴ヲ為ス

如シ終審ナラハ被告人ニテ保証人ヲ相手  
取りテ訴訟ヲナレソノ曲ナルモノハ損ト  
ナルナリ

問 天災ナレハ曲ナルモノハナキ答ナリ  
答 如シ保証人ニテ道理ノ立ツヘキ文ケ



ノ証拠アルトキハ被告人ハ止ムコトヲ得サ  
ルナリ

萬一保証人ノ曲アルトキハ保証人ノ損ト  
ナル

現地ニハナキコトナリ何トナレハ仏ニテハ  
原被告共ニ保証人トモ代書師ヲ頼ミ自カ  
ラ出席スルコトハ絶ラナシ

同一ノ裁判所ニアル代書師ヲ頼ムコトハ前  
ノ如キ天災ニカ、ルコトハ直チニ知ルヲ得  
ヘキナリ

### 司法省

大病等モ同断ナリ

自カラ出席スルモ書面ヲ以テ代書師ヲ頼  
ムモ到底曲アルモノハ損トナル

ホアリナト案スルニ保証人ノ損トナル  
ヘレ

民法第六百四十條ヲ参照スヘシ

此條ハ買主ニテ賣主ヲ呼ビ出スコトヲ怠タ  
リタルトキノコトニテモソノ節賣主ノ証拠  
立タサレハ其償還ヲ為スコトナリ

マシテ前段ノ事ハ被告人ニテ保証人ヲ呼



ヒタルニソノ保証人出席セサルコトナリ仍  
テ保証人ノ損トナルナリ

ソレニテハ酷ナラスヤ

之レノミヲ酷ナリト云フコトヲ得ス

タトヘハ控訴ヲ為スコトニ付テニヶ月間ニ  
大病等ニテ控訴ヲ為サシムルトキハソレ切  
リナリ

併シ之レハ酷ナリト虽モ改ムルコト能ハス  
仏ニテ非常ノ道ヲ以テ裁判改正ヲ願フコ  
ト得ヘキコトナケ條アリ之レ等ノモノハ其

### 司法省

非常ノ道レケートシヒルヲ以テスル内へ入レ置クヘキナ

リ  
レケートシヒルノ第十條目ニ人ヨリ金ヲ借  
リテ一旦拂ヒタルモソノ受取書ハ貸主ノ  
手ニアリテ拂ヒタル証トナラス二度拂ヒ  
タル後始メノ受取書ヲ手ニ入レ確証トナ  
リタルトキ之レヲ「レケートシヒル」ニ訴フル  
コトアリ

ソノトキタトヒ詐偽ナリトモ知ラサリシ  
コトナリトモ之レヲ「レケートシヒル」ニ訴フル



ナリ

仍テ船ノ難風ニ逢ヒタル等ノ天災ニ依リ  
タルトモ心ノ付カスレテ出席セサルモ「レ  
ケートシヒル」ニ訴フルトニ立テ置ク方宜シ  
カラシ

問 府縣裁判所ノ裁判ノトキニ証據ヲ出  
ス「トヲ急タリタルニツキ負訴訟ニナリタ  
リソノ後ソノ確証ヲ以テ控訴シタリ之レ  
ハ如何スヘキヤ

司法省

答 既ニ控訴シタルモノハソノ前ノ裁判

ヲ無キモノト見テソノ証據ニ依リテ裁判  
スヘキナリ

元ヨリアル文ケノ証據ヲ出スハ苦シカラ  
サルナリ

控訴裁判所ニテハ此証ハ府縣裁判所へ出  
セシヤ出サ、リシヤナト云フ「トヲ要セサ  
ルナリ萬一之レヲ云フトキハ原告人ニテ  
ハ君ノ聞ク「トニアラス此方ヨリ願フ「トヲ  
聞キ玉ヘト云フヘキナリ

第百八十條。



原告人被告人ノ保証人ヲ呼出スニ付キ猶豫ノ  
期限ヲ許ス可カラサル旨ヲ述フル時ハ其述  
フル所ヲ至急吟味ノ法式ヲ以テ裁判ス可レ  
之レハ猶豫ノ期限ヲ求メタルニ之レヲ許サ  
サルトキノコトナリ

タトヘハ贈遺ヲ為シタル人ヲ保証人ニ呼ヒ  
出スコトヲ得ス

賣買上ニ於テモ常ニ賣人ヲ呼出スコトヲ得サ  
ル場合アリ

動<sup>産</sup>不動産ヲ賣買スルニ賣人ニテ他日ノ保証

### 司法省

ヲ為サストノ契約ニテ買ヒタルモノニ付キ  
故障アリトモ保証人ヲ呼出スヲ得ス即チ簡  
易ノ裁判ヲ以テ之レヲ裁判スルナリ

此時ハ代書師ト代書師ニテ書類ヲ送達セス  
直ニ双方ノ申立ヲ聞テ裁判スルナリ  
之レマテハ被告人ノ保証人ヲ呼出スコトヲ説  
キタリ

原告人ニテモ保証人ヲ呼ヒ度キトキハ之レ  
ヲ呼出スコトヲ得ルナリ併シ稀ナルコトナリ  
タトヘハ一ツノ不動産ヲ兩人ニテ買ヒタリ



原告人ニテソノ品ヲ取ラント云フニ被告人  
ニテ之レヲ拒ムトキソノ賣主ヲ呼ビテ若一  
ツノ品ヲ二人へ賣ルハ何事ソヤト云フトキ  
之レナリ

ソノ原告人ニテ保証人ヲ呼フノ期限ハ被告  
人ニテ故障ヲ云ヒタルトキヨリ八日内ニ呼  
出状ヲ出スナリ惣テ被告人ニテ保証人ヲ呼  
出スト同シ手ツキナリ

ソノトキハ原告人ノ保証人ノ来ルマテ主  
ル裁判ハ延引スルナリ

### 司法省

此訴訟ヲツキケルトキハ原告人ノ負トナル  
ユヘ必ラス中止スルナリ佛ニテハ不動産ヲ  
買ヒタルトキハイポターキノ役所ニアル帳  
面ニ登記スルナリソノ登記ヲ先キニ為シタ  
ルモノト品ト定ムルユヘ右ノ場合ニ於テハ  
賣主ハ原被一方ヨリ呼出サレサルヘカラス

### 第百八十一條

保証人ナリトシテ呼ビ出ヲ受ケタル者ハ保証  
者ニ非サル旨ヲ述フル為ト虽氏主タル訴訟  
ヲ審判スル裁判所ニ出ツ可シ然レ氏其保證



人ヲ其至當ノ裁判所ヨリ更ニ他ノ裁判所ニ  
出ラシムル為メ故ラニ主タル訴訟ヲ為シタ  
ル事ヲ證書又ハ其他ノ證ニ因リ明ニ知り得  
可キ時ハ保證人其至當ノ裁判所ニ出ルコトヲ  
得可シ

保證人トナシテ呼ハレ保証人ニアラサル旨  
ヲ述フルトキニモ我カ管轄ノ裁判所ニアラ  
スト述フルトキニモソノ主タル訴訟ノ裁判  
所ノ裁判ヲ受ケサルヘカラス

裁判所ノ管轄ノ違ヒタルコトヲ説キタルトキ

### 司法省

之レハソノ取り除ケナルコトヲ説キタリ

保證人ナリト云ハレタリトモ保証人ニアラ  
サルコトヲ述フルニハ必ラス主タル訴訟ノ始  
リタル裁判所へ出ツヘシ

タトヘハ被告人住所ノ裁判所へ呼ビ出サレ  
金ヲ借リタルコトノ訴ヲ受ケタルニソノソノ  
借リタルヤ借リサルヤハ即チ被告人住所ノ  
裁判所ニアラサレハ分カラサルナリ

之レニ同シク保証人ナリヤ否ラサルヤハソ  
ノ主タル訴訟ヲ審判スル裁判所ニアラサレ



ハ分カラサルナリ

此條ノ始メノ方ハ即チ此意ナリ

後文然レモ以下ハ餘程六七敷ナリ之レヲ  
講スルニハ半時間ヲモ費ヤス可シ

之レハ一ツノ主タル義務アルモノアリテソ  
レニ請人ノ付イテアル場合ニ當ルナリ

此所口ハ只猶豫ノ為メ而已ナラス保証人ヨ  
リ又保証人へ順次ニ掛ル裁判言渡ハ如何ス  
ヘキヤマテヲ含蓄スル所口ナリ

司法省



訴訟法會議筆記

一月二十九日  
第二十九

司法省



第百八十一條後半截

然レモ以下

此條ニ依テ見レハ主タル訴訟ニツキ保証人ヲ呼フトキニ何レノ裁判所へ呼出スヘキヤトナルニ当然ナレハ保証人モ即チ被告人ナレハ保証人裁判所へ出ツヘキナレモソノ主タル訴訟ハ他ノ裁判所ニテ始マリタルトキハ保証人ノ義務ナルユヘソノ主タル訴訟ノ始マリタル裁判所へ出テサルヘカラス

司法省

夕トヘハ保証人ニアラサル旨ヲ述フルニモセヨソノ主タル訴訟始マリタル裁判所へ出ツルヘカラス

被告人ニモセヨ保証人ニモセヨ自カラソノ至当ノ裁判所ヲ分別スルヲ難シ依テ宜クノ呼ヒ出サレタル裁判所へ出テサルヘカラス

主タル訴訟ノ始マリタル裁判所ハソノ主タル訴訟ニツキ不意ニ起ル事件ハ惣テソノ裁判所ニテ裁判スルナリ



又トヒ保証人ニアラスト云フトモ果シテアルヤアラサルヤ保証トナルヘキマテヲ取調フルノ權ハ主タル訴訟ノ始リタル裁判所ニアリ

之レハ被告人ニテ裁判所ノ違ヒタルト云フトキ違フヤ違ハサルヤハ取調タル上ニアラサレハ知ルヘカラサルニツキ一應取調フルト同シ

未段ハ詐偽等ノフニ陥ル場合ナリ注意シテ読ム可シ

### 司法省

原告人成リ丈テ我カ主所又ハソノ近所ノ裁判所へ訴フルヲ欲スルハ常情ナリ

又トヘハ原告人ハ東京ニアリ被告人ハ長崎ニアリソノトキハ長崎ノ代書師ヲ任シテ遠方ニ居リテソノ訴訟ヲ監督スルハ不便利ナルニツキ成リ丈テ東京ノ住所へ被告人ヲ引キ付ケテ我カ便利ヲ謀ルフ多クアルナリ

又トヘハ甲ナル人ニテ長崎ニ居ル乙ナル人ニ金ヲ貸シタル然ルヲ東京ノ受人アリ尋常ナレハ被告人ヲ訴ヘタル後受人ヲ訴フルフ



ナレバ 仏ニテハ 何レヲ 先キニ 為ストモ 苦シ  
カラサル 法ナリ

故ニ 甲ナル人ハ 東京ノ 受人ヲ 誣ヘタルニツ  
キ 受人ハ 長崎ニテ 借主タル乙ナル人ハ 金  
ヲ 返シタルヤ 返サ、ルヤ 知ルヘカラサルニ  
ヨリソノ 借主ヲ 保証ノ 為メ 呼ヒ出サ、ルヲ  
得ス

右ノ如ク 借主ノ 裁判所ヘ 誣ヘスニテ 受人ノ  
裁判所ヘ 誣ヘタルハ 詐偽アルヤ 否ヤヲ 取調  
ヘサルヘカラス

### 司法省

元ヨリ 法律ニ 於テハ 詐ス所ナレバ 之レヲ 調  
査セサルヘカラス

何トナレハ 長崎ノ 借主ハ 金アリ返スヲ 得  
ヘキトキ 先ツ 受人ヲ 誣フルノ 理ナキニ 此  
レ等ノ 一ハ 裁判所ニテ 取調ヘ 万一 右ノ如ク  
詐欺ナルヲ 借主ノ 裁判所ヘ 誣フヘシ  
ト云フナリ

又一例アリ

甲ナル人 東京ニアリ 長崎ノ 乙ニ 對シテ 権利  
アリソノ 長崎ノ人ヲ 長崎ニ 誣フルハ 遠方ニ



テ困ルニツキソノ權利ヲ丙へ賣リタリ然ル  
ニ丙ソノ權利ヲ得ルコトヲ得ス仍テ丙甲ヲ  
訴ヘタリ之レハソノ義務アルモノ長崎ノ何  
ノ所ロニ居ルヲモ知ルヘカラサレハナリ  
依テ甲ニテ長崎ノ乙ナル人ヲ保証人トシテ  
東京へ呼ヒタリ然ルニソノ長崎人ハ返金ヲ  
為スヘカラサル如キ人ニアラス只々ソノ人  
ヲ困却セシムル為メニ呼ヒタリト分明ナル  
トキハ即チ長崎ニテ訴訟ヲ為スヘシト東京  
裁判所ニテ云フナリ

### 司法省

ソノ時ハ即チ保証人ニ人アル姿ナリ  
甲ハ之レハ慥カニアル權利ナリト云フトキ  
丙ハ然ラスソノ本人ヲ東京へ呼フヘシト云  
ヒソノ長崎人ヲ呼ヒテソノ金ヲ拂フヘシト  
云フ  
之レハ金ヲ長崎ニテ行クコト欲セス東京ニテ  
訴訟ヲ為シタキノミノ志アリソノトキハ之  
レヲ長崎ニテ訴訟ヲ為サシムルナリ  
ソノ時、甲ハ丙ノ保証長崎人ハ甲ノ保証ナ  
リ



第一ノ例ハ第一ノ例ニ比スレハ甚ク少ナシ  
殊ニ貸金ヲ受人ナキトキハ第一ノ例ハ行フ  
コトヲ得スト虫凡第一ノ例ハ受人ナク凡之レ  
ヲ行フコトヲ得ルナリ仍テ第二ノ例ハ度々ア  
ル例ナリ

問

被告人ノ返金ヲ為スコトヲ得ヘキトキハ受  
人ヲ呼ヒ出スコトヲ得ストノ原則アリヤ

答

之レハ規則ニハアラスタトヒ被告人ニテ  
十分ニ拂フコトヲ得ヘキトキト虫凡受人ヲ  
訴テ苦シカラス 併シ長崎ヨリ東京へ呼ヒ

### 司法省

出スコトヲ謀リタルコトヲ証アルトキハ之レ  
ヲ長寄ヘ廻スコトアリ

一 民法中ニ受人ノ條アリ之レヲ讀メハ今  
ノ説ハ了解スヘキナレ凡民法ヲ欠トシテ訴  
訟法ノ先キニ説キタルノ要ナリ

故ニ暫ラク此條ヲ止メテ民法ノ保証人ノコ  
トヲ説キタルハ如何

若シ借主ニ請人アルトキハ請人ヲ訴クルモ  
苦シカラストアリ

併シ受人ハ辯論スルコトヲ得ルコトノ辯論ハ先



ツ本人ヲ訴フヘシト云フナリ

其受人ニテ辨論スルヲ得ルト云云七ツノ場  
合ニ於テハ辨論ヲ為スノ便益ヲ失フナリ

### 第一

借入金ヲ拂フヘキ人ノ住所ノアル控訴裁判所  
ノレツツノ内ニ被告人ノ不動産ノアラ  
サルトキ

### 第二

其不動産自今起ル訴訟ノ外ノ引當トナリ  
テアリタル時

## 司法省

### 第三

其不動産ニツキ訴訟ノ起リテアリタル時

### 第四

如シ不動産アリトモ受人ハ之レヲ賣リ拂ヒ  
タルトキノ入費ヲ出サ、ル所

### 第五

其訴訟ノ始メニ故障ヲ述ヘサルトキ

### 第六

ソノ契約ヲ為ストキハ辨論スルヲ為スヘ  
シト書カサルトキ

以上ハ民法  
二二二條以下  
見合



裁判所ヨリ  
受人ヲ命スル  
一八二四十二條  
又訴訟法書十  
七條以下見合  
一卷

第七

裁判所ヨリ受人ヲ命シタルトキ

元來受人ニ三ツノ種類アリ

第一ハ契約ヨリ成リ立子タルモノ  
即チ信義上ヨリ成ルモノ

第二ハ法律上ヨリ立ツルモノ

第三ハ裁判所ヨリ立ツルモノ

契約ヨリ成ルモノハ分明ニ知ルヲ得ヘシ  
法律上ニ成ルモノハ此場合ニ於テハ各様々  
トノ受人ナカルヘカラスト云フトキ之レナ

司法省

縦令ハ失跡者ノ財産ヲ相續スヘキモノアラ  
ニニ假リニ相續ヲ為スツノ時ニソノモノヨ  
リ受人ヲ立ツルナリ

入額取得ノ權ヲ得ル人ハ受人ヲ立テサルヘ  
カラス裁判所ヨリ立ツル受人ハ之レ丈ケノ  
ヲ取行フニハ受人ヲ立テサルヘカラスト  
云フトキ

之レハ此頃説キタル所ニ至急裁判ノトキ  
ハ受人ヲ立ツルヲモ立テサルヲモアリト云



ヒタリ即チ之レナリソノ場合ニヨリテ受人  
ヲ立ツル之レ裁判所ヨリ立テタルモノナ  
リ  
元ヨリ裁判官ノ勝手ニ受人ヲ立ツルコトヲ得  
ス法律上ニ於テ此ノ如キ場合ニ於テハ受人  
ヲ立ツヘシト云フ正條アルトキナリ然シタ  
トヒ正條アリトモ強テ法律ヲ以テ余スルモ  
ノニアラス裁判官ノ便宜ニヨリテ之レヲ立ツ  
ルモノ立テサレモ可ナリトス

### 司法省

アリ裁判官ノ勝手ニ余スルトアヤマリテ因  
却スルナリ

仍テ受人ヲ先キニ訴ヘタルトキ受人ニテ之  
レヲ辯論スルコトヲ得ルハ前ノ七ツノ場合ノ  
ミニテ實ニ辯論スルコトヲ得サルトキ多キナ  
リ

右ノ如キモノユヘタトヘハ東京ニアル受人  
ヲ訴ヘタルトキソノ受人ハ長崎ノ本人ヲ訴  
ヘテモラヒタキ昔ヲ訴訟ノ始メニ云ハサル  
ヘカラスソノ長崎ノ本人来リテ請人ニ對シ



テ云ハク我ニ對スル訴訟ナラハ何ノ為メニ  
始メニ長崎へ行ケト云ハサルヤト云フトキ  
之レヲ裁判所ニテ取調ヘテ見ルニ原告人ト  
受人トナレ合ヒタルコトノ分明ナルトキハ裁  
判所ニテハソノ受人ヲ被告人ト為シテ之レ  
ヲ裁判スワノ後受人ニテ長寄ニ行キテ本人  
ヲ相手取ラサルヘカラス  
如シ受人ト原告人トノ間ニ詐偽ナケレハ受  
人ハ借金ヲ拂フヘキコトヲ言渡サレ本人ハ受  
人へ償戻シテ為スヘシト言ヒ渡サレナリ

### 司法省

第百八十二條 物權又ハ書入質ノ權ノ為メ端  
式ノ保証ニ付テハ保証人被告人ニ代テ其訴訟  
ヲ為スコトヲ得可シ但シ裁判所ヨリ訴訟ニ付キ  
初度ノ言渡ヲ為ス前ニ被告人其訴訟ヲ免ル、  
コトヲ願フ時ハ之ヲ免ル、ヲ得可シ  
然レ被告人訴訟ヲ免レタル時己レノ裁判ヲ保  
全スル為メ其訴訟ニ參スルコトヲ得可ク又原告  
人已レノ權利ノ保全スル為メ被告人ヲ其訴訟  
ニ參シ置カシム可キノ要メヲ為スコトヲ得可シ  
第百八十三條 通常ノ保証ニ付テハ保証人本



人ニ代テ訴訟ヲ為ス可カラス唯其訴訟ニ参ス  
ルヲ得可シ

裁判所へ原告人被告人一同ニ出テ故障モ何  
モナキトキノコナリ

ソノ時被告人タル保証ヲ頼ム人ニテ之レハ  
我カ保証人ナリト云ヒテ被告人ハ全ク裁判  
所ヨリ去リテソノ裁判ニ参セサルコアリ  
之レヲ仏ニテ「カラニチー」ホルメルト云フホ  
ルメルト云フ字ハソノ意味不分明ナリト  
氏之レヲ解説スレハ全ク代ハルト云フ意ナ

### 司法省

リトス

端式トスルハソノ意味當ラス

時ニヨリ被告人モ保証人モ同シク裁判所ニ  
居リテ兩人シテソノ訴訟ヲ拒クコアリ之レ  
ヲ仏ニテ「カラニチー」サンプルト云フ之レハ  
半保証ト云フ意アリ

第一之レニツキ何レノ時ハ全クナリヤ何レ  
ノ時ハ半ハナリヤヲ區別セサル可カラス  
第二何レノ都合ニテ全ク何レノ都合ニテ半  
ハナリヤ



第三何ノ為メニ全ク何レノ為メニ半ハナリ  
ヤ

其第一、何レノ時ニ全ク何レノ時ハ半ハナ  
リヤヲ説カントス

其規則ハ至ツテ寛ナルモノナリ

第一ニハ物權或ハ書入質不動産ノトキハ被  
告人ハ去リテ可ナリソノ物件ハ被告人ノ手  
ニアルヲ以テナリ

義務ノ付テ訴ヘテ受テタルトキハ末々  
我レニ義務アルユヘ被告人モ共ニ裁判所ニ

### 司法省

居テソノ事ヲ禦カサル可カラス

此ニツテ人權ト物權トノ付ニ區別シテ説カ  
ントス

物權ノ付ニ付テハ原告人ニテ誰レニ掛リテ  
訴ヘテ為ストモ苦シカラス

又トヘハ此人ヲ訴ヘテ方一人ニテラサル  
トキハ更ニ他ノ人ヲ訴ハルユヘ關係ナキ人  
ナラハ裁判所ヲ去ルモ苦シカラサルノ理ナ  
リ

義務ニ於テハ去ルコトヲ得スソノ保証人ニテ



之レヲ拂フコトヲ得ヘキ人ナレハ可ナリト云  
凡万一人ニ難法ヲ掛ケルコトニテハ濟サレモ  
ノエヘ自己ニテソノ言渡ヲ受ケテ之レヲ拂  
ハサルヲ得サルナリ

タトヘハ東京ノ請入ニテ訴ヘヲ受ケタリ之  
レハ長寄ノ本人ニテ借リタルモノユヘソノ  
本人ヲ呼ヒ出スナリ 既ニ本人ニテ裁判所へ  
出タルニツキ被告入タル受入ハ裁判所ヲ去  
ラントス其時原告入君ノ云リタラハ如シ保  
証人タル本人ニテソノ金ヲ拂フコトノ出未サ

### 司法省

ルトキハ誰レニカ、ルヘキヤ即子君ノ拂ハ  
サレヲ得サルナリト云フトキハ請入モ共ニ  
裁判所ニ居リテ其本人ト共ニ言渡ヲ受ケサ  
ルヘカラヌ

全クノ例ヲ舉ケントス

タトヘハ甲へ乙ヨリ不動産ヲ賣リタリ然ル  
ニ丙ニテソノ不動産ハ我カモノナリト云ヒ  
甲ヲ相手ニ取リテ訴ヘタリ然ルニ甲ハ賣主  
タル乙ヲ保証人ニ呼ヒタリソノトキ甲云フ  
ニ我レハ関セストモ可ナリ君兩人ニテ議論



セヨト

乙ハ全クノ保証人ナリ

故ニ甲去リテソノ跡ヲ乙ニテ務メサル可カ  
ラス

又人權ニ付テノ例ヲ攀ケントス

前ニ説ク所セツノ場合ノ故障ナキモノトシ  
當然ノ場合ニ至リタリ其時乙ハ長崎ヨリ呼  
ヒ出サレ甲ハ去ラントスソノトキ丙云ク君  
カ去リテハ何ノ保証トアルヘキヤ去ルヘカ  
ラスト云フトキハ甲ハ去ルコトヲ得ス

### 司法省

ソノ時ハ被告人モ保証人モ共ニ裁判所ニ居  
リ勝ツヘキ道理ヲ述ヘサルヘカラス

第百八十二條ニ物權又ハ書入質トアツテ第百  
八十三條ニハ人權ノコト書ヒテナケレバ即  
チ人權ノコト見做スナリ

併シ人權ノ字ヲ入レサルヘカラス

第百八十二條ニ付テハ物權ニ付テノ保証人  
ノ處分ノコトヲ委シク書キタルモノナリ

物權ニ於テ保証人ノ去ル權利アリ然ルニ乙  
ト丙トノ爭論ニ於テ甲ニテ自カラ害ヲ受ケ



ルト思量スルトキハ裁判所ニ残リテソノ争  
論ヲ聽クヲ得ルノ権利アリ

如シ丙ノ取戻シヲ求メタル不動産ニ付テ手  
入ヲ為シタル入費ハ丙ヨリ取テサルヘカラ  
スソノトキ去リタラハ誰モ取ルモノナシ  
仍テポアツソナードハ裁判所ニ残ラサルヘ  
カラス

之レニ及シ甲ニテ不正ノ心ヨリシテ不動産  
ヲ所持シタル時ハソノ不動産ヲ手ニ入レタ  
ルトキヨリノ上リ高ヲ丙ニテ取リ戻サル

### 司法省

ヘカラス

仍テ被告人ハ去ルヘキ権利アルト雖モ亦去  
ルヘカラサルノ義務アリトス何レモ保証人  
是ニ原告人ノ便利次第ニテ裁判ニ参スルヲ  
ヲ得ルモノトス

又原告人ノ求ニヨリテ裁判所ニ留メラル、  
トモアル可シ



司法省



林文

訴訟法會議筆記

二月五日

司法部



二月五日

第百八十二條ハ過日說キタレヒ尚更ニ詳說セ  
ントス

物權ノ一ニ付ラソノ取戻レノ訴又ハ不動産書  
キ入レノ一ニ付ラ訴ヘラレタルトキハ其被  
告人ハソノ訴庭ヲ全ク離レラソノ保証人ハ  
被告人ニ代リテソノ訴事ヲ引受ケサルヘカ  
ラス元ヨリソノ訴事ニ携ハラストモ妨ケナ  
レ家ナレハソノ家ニ住レ物件ナレハソノ物  
ヲ持テ居ルユヘ縦令負ケタリトモソノ賣リ

### 司法省

タルモノヨリ償ヒ戻レテ為スユヘ居ラスト  
モ妨ケナレトス

或ハ自カラ居ルトモ妨ケナレ又ハ原告人ノ求  
ニヨリ居ラレメラル、一モアリ

ソノ本人ノ自カラ残りテ居ルハソノ家又ハ物  
ニ自カラ手入レテ為レタル代價ヲ原告人ヨ  
リ取り戻サ、ルヘカラサルヲ以テナリ

或ハ又買主ノソノ買入レタルトキヨリ家ナラ  
ハ毀テホナラハ代リタルトキハ原告人ニテ  
ソノ償戻レヲ求メサルヘカラス其時ハ原告



人ニテ之レヲ留ムルナリ。  
保証人ヲ頼ミタル被告人ハ何時タリトモソノ  
訟庭ニ携ハリタキト思フトキハ若レカラス  
之レハ保証人ヲ不都合アルヤナキヤヲ監視ス  
ヘキ為メナリ

第百八十三條ニ移ル

此条ハ前条ト同レク書キ方ヨロシカラス  
前ノ条ハ物権又ハ書入質等ニ付テノ保証ハ大  
々ト書カサルヘカラス

後ノ条ハ人権ト書カサルヘカラス

### 司法省

人権ノトキハ何ノ為メニ通常ノ保証ト譯セレ  
ヤトナレハタトヘハ爰ニ金ヲ借リタル人ア  
リソノ請人アリソノ訴訟トナリタルトキハ  
其本人ヲ呼ハサル可カラスソノ時請人ニテ  
辨論アルキハ格別ソノナキ氏ハ本人ト同レ  
ノ訟庭ニ残リテ防カサルヘカラス

原告人ニテモ請人ハソノ訟庭ニ残ラサルヲ得  
スト云フモノハソノ本人ニテ其金ヲ拂ヘハ  
善レ万一本人ニテ拂フ能ハサル時ハ請人ニ  
拂ハレハ然ラサレハ何ノ用ヲ為サス



保証人ヲ残シテ本人ハ去ルヲ得サルハ何ノ  
為メソヤ

ニツノ要用アルユヘナリ

第一ハ

本人ニテ相当ノ申立アルカ又ハ既ニ拂ヒタリ  
ヤモ知ルヘカラス

右等ヲ知ラサルニヨリテ負クルキハ請人ノ落  
度ナリトス

第二ハ

如シ相当ノ防クヘキ説モナクシテ請人ハ負ケ

### 司法省

トナリテ之レヲ償フタルトキハ本人ニテ之  
レヲ償ヒ戻スヘキノ裁判ヲ云渡サル、為メ  
ナリ

本人ヲ呼ハスエテ請人ニテ自カラ償フヘキ裁  
判ヲ言ヒ渡サル、ナリ

ソノ時ハ一ツノ新ナル訴訟ヲ以テ本人ノ裁判  
所へ訴へ出テサルヘカラス之レ甚々迷惑ナ  
ルヲナリ

如シソノ訴へタルトキ本人ニテ其借金ハ我レ  
既ニ拂ヒタリソノ訴訟ノトキ君ハ何故我レ



ヲ呼ハサリレヤト云フトキハ何ノ用ヲモ為  
サ、ルナリ

「コレヨシ」 請人

之レニニツノ務メアリ貸人ニ對シテハ本人ノ  
拂ハサルトキハ我レ之レヲ拂フヘレト云フ  
即チ保証ナリ借主ニ對シテソノ保証ヲ頼マ  
ルニナリ

請合フ方ハ「カラシ」請合ヲ頼アルニ方ハ「ガラン  
チ」ナリ

之レヲ行フ人ヲ「コレヨシ」ト云フ

### 司法省

ソノ例ヲ舉ントス

タトヘハ甲ハ乙ヨリ金ヲ借リタリ乙ハ返スマ  
返サ、ルヤ不安心ナルユヘ丙ヲ請人ニ頼ミ  
タリソノトキ丙ハ乙ニ對シ甲ノ保証ナリ丙  
ハ甲ヨリ保証ヲ頼マル、モノナリ

乙ハ丙ニ掛ルトモ甲ヘ掛ルトモ勝手次第ナリ  
如シ甲ヘカ、リタル訴訟ナルトキハ甲ニラ  
丙ヲ呼ヒテ保証セシムルヲ得ス

如シ甲ハ負ケタレ氏金ノ拂フヘキナキトキハ  
乙ハ丙ニ掛リテ其住所ノ裁判所ヘ訴フルナ



リッノ時ハ丙ハ甲ヲ呼フヲ得ス  
何ノ為メニ呼フヲ得スト云フニ甲ヲ呼ヒタ  
リトモ別ニ弁スヘキ道理モナク又既ニ拂ヒ  
タリト云フ理モナレ既ニ裁判ヲ言渡サレタ  
ルナリ

其時ハ丙ニテ一旦乙へ金ヲ拂ヒ再ヒ甲へ掛リ  
テ訴訟ヲ為サハル可カラス

甲ヲ始メニ訴ヘスレテ丙ニ對シテ訴ヘタル時  
ハ丙ハ甲ヲ呼ンテ共ニ防カサルヘカラス而  
シテ負ケタルトキハ丙ハ乙へ拂ヒ甲ハ丙へ

### 司法省

償戻シテ言渡サレサルヘカラス

請人ハ甲ニ代リテ乙へ拂ハサルヘカラス甲ハ  
乙ヲ頼ミテ保証ト為レタル款ナリ

此条ハ証文ノ請人ニテ原告人ヨリ本人トシテ  
訴ヘタルトキノナリ仍テ此保証人ハ証書  
ノ借主ニテ本人トアルハ原告人ノ被告人即  
チ証書ノ請人ナリ

又トハ甲ニテ乙ヨリ金ヲ借ルトキ丙ヲ請人  
ニ頼ミタリ然ルニ乙ニテ猶不安心ニ付丙ノ  
請人ヲ望ミタリ仍テ更ニ丁ヲ丙ノ請人ト為



シタリ然ラハ丙ハ甲ノ請人ニテ丁ハ丙ノ請人ナリ

仍テ乙ニテ丁ニ對シテ訴ヘタリ佛ニラハ請人ノ請人ヲ訴ヘタリトモ苦シカラス

請人ノ請人ヲ「セルケカトール」ト云フ

ハソノ訴ヲ受ケタルニツキ丙ヲ保證人ニ呼ビタリ丙ハ又甲ヲ保證人ニ呼ビタリ

其時ハ丙ハ丁ノ保證人ナリ甲ハ乙ニ對シテ保證人ナリ

更ニ丙ハ甲ヨリ保證ヲ頼マレタル人ナリ丁ハ丙ヨリ頼マレタル人ナリ

### 司法省

此場合ニ於テハ一人ニテ二ツノ役ヲ兼テルモノナリ

丙ハ丁ニ對シテハ保證ナリ

丁ハ乙ニ對シテハ保證ナリ

### 第百八十四條

主タル訴訟ト保證ノ訴訟トヲ同時ニ裁判スルヲ得ヘキ時ハ共ニ之レヲ裁判ス可ク然ラサル時ハ主タル原告人其二個ノ訴訟ヲ各自ニ裁判スヘキ要ノヲ為ス<sub>1</sub>ヲ為シ得可シ此場



合ニ於テハ主タル訴訟ノ裁判言渡書ニ保証  
ニ付テノ訴訟ヲ別ニ為ス可キコトヲ記ス可シ  
但シ主タル訴訟ノ裁判言渡ノ後保證ニ付テ  
ノ訴訟ヲ裁判ス可キ時ハ別ニ之ヲ裁判ス可  
シ

此所ロニ少レク面倒ナルコトアリ

一ツノ裁判ニテ二ツノ裁判ヲ為スコトヲ得サル

### 場合アリ

タトヘハ保証ノコトニ付テ借主ノコトニツラ一  
時裁判スルコト能ハサルコトアリ

## 司法省

タトヘハ貸人ニテ請人ヲ訴ヘタリ仍テ請人ニ  
テソノ借主ヲ保証人ニ呼ヒタリ

然ルニソノ借主ニテ防クカモナク終ニ原告人  
勝チトナリタリ

ソノトキニ請人ハ保証人即チ借主ニ對シテ此  
弁金ヲ言渡サレ度旨ヲ願フタリ

然ルニソノ借主ニテ追々幾分ノ金ヲ度ヒニ拂  
フテクレヨトソノ金ヲ請人ヘ入レテ置キタ  
リト云フトキソノ入レ置キタリヤ否ヤハ速  
カニ取調ヘハ付カサルコトアリ



或ハ別ニ差引アルニツキ差引勘定ヲ為シタキ  
旨ヲ述フルトアリ其時ハ別シテ面倒ナルト  
ナリ

ソノ時ハ主タル訴訟ヲ裁判スルトニテ副タル  
訴訟ト引キ分ケテ裁判スルト云フナリ

二ツノ訴訟ヲ一時ニ裁判レ得ヘキハ被告人  
ハ何程ノ金ヲ拂フヘレ保証人ハソレ丈ケノ  
金ヲ償ヒ戻スヘシト裁判スルナリ

然ルニ原告人ニテソノ裁判ノ遅延スルヲ嫌ヒ  
テ早ク裁判ヲ願フトキハ引キ分ケテ主タル

### 司法省

訴訟ノミテ裁判レソノ副タルトハ後ニ裁判  
スルト書イテ渡スナリ

尤モ副タルトモ速カニ裁判スルナリ

### 第百八十五條

端式ノ保証ニ付キ保証人ヘノ裁判言渡ハ原告  
人其本人ニ對シテ之レヲ執行フ可シ

此場合ニ於テハ本人訴訟ヲ免レタルト訴訟  
ニ參シタルトテ問ハス原告人ヨリ其本人ニ

裁判言渡書ヲ送達スルヲ以テ其裁判言渡ヲ  
執行フニ足レリトス但シ其他別ニ訴訟ノ手



續ヲ為スニ及ハス

然レ被告人ヨリ裁判ノ費用及ヒ原告人ヘノ  
損失償ヲ拂フ可キ言渡ハ原告人保証ニ對シ  
テ之レヲ執行フ可シ

然レ保証ノ金高ヲ拂フテ能ハサル時ハ本人  
其裁判費用ヲ償フ可シ但シ本人訴訟ヲ免レ  
タル時ハ格別ナリトス

又裁判所ヨリ別段ノ言渡アル時ハ本人ヨリ  
原告人ニ損失ノ償モ亦之ヲ拂フ可シ  
之レモ物権ノ一ヲ云フ

### 司法省

タトヘハ乙ノ所有ノ物件ヲ丙ニ取り戻シテ求  
メタリソノ物件ハ甲ヨリ賣リタルモノユヘ  
甲ヲ保証人ニ呼ヒ出レタリ然ルニ丙ハソノ  
訴訟ニ携ハラサルユヘ甲ニテ訴訟ヲナシテ  
負ケタリソノ時ソノ言渡書ハ乙ヘ渡ス其言  
渡書ニハソノ物主タル丙ノ名ハ書イテナシ  
然ルニ其執行ハ即チ丙ニ對シテ為スナリ何  
トナレハ物件ハ丙ノ手ニアルユヘナリ  
其時自

已ニテ訴訟ヲ引キタリトモ  
ニ訴訟ニ殘リタリトモ

元ヨリ訴訟ニ殘ラステ負ケタリトモ其裁判



言渡書ニ付故障ヲ述フルトテ得サルユヘ訟  
庭ニ残リタルトキハ尙更ナリ

元來裁判入費ハ負ケタルモノ之レヲ拂フナリ

此時ハ誰ニ拂フヘキヤ

ソノトキハ本人タル丙ノ訟庭ニ居リタリヤ否

ヲ區別セサルヘカラス

丙ノ訟庭ニ居ラスシテ甲ノ負ケタルトキハ甲

之レヲ拂フヘシトス

如シ丙ト訟庭ニ居リテ甲負ケタリ甲之レヲ出

ストテ得サルトキハ丙之レヲ拂ハサルヘカ

### 司法省

ラス但シ訟庭ニ居ラサルトキハ格別ナリト

ス

更ニ損害ノ償ヲ出スヘキ時モ訴訟入費ノ出シ

方ト同一ナリトス

此条ノ第四項ハ譯文ヨロシカラス之レヲ又裁

判所ノ見込ミヲ以テ損害ノ償ヲ言渡サシタ

ル時モ前項ノ如ク之レヲ為スヘシト改正ス

ヘシ

費用ノ償ハ保証人ニテ拂ハサルトキハ必ラス

本人ニテ拂ハサルトテ得サルアリ



損害ノ償ハソノ時ニヨリテ変ルコトアリ第四項

ハソノ片ノコトヲ云ヒタルモノナリ

タトヘハ甲カ樹木ヲ切りタルモノヲ丙ニテ拂

フヘキノ理ハナク丙ノ家ヲ破壊シタルモノ

ヲ甲ニテ拂フノ理ナキカ如シ

暫時ホアソナートニ質問シテ善ク分リタリト

イヒテタトヘハ買主ノ本人ノ買ヒタルトキ

壊リタルヤ又ハ幾年間ノ収納ヲ取りタル上

ハソノ片ハ原告人ハ訟庭ニ残サ、ルヲ得ス

既ニ裁判トナリタル上ハソノ壊リタルモノヨ

### 司法省

リ損害ノ償ヲ出サ、ルヘカラス

ソノ時甲ハソノ償ヲ云ヒ渡サレルナリ

万一ソノ時丙ニテ訟庭ニ居リタルニ甲ノ拂フ

コトヲ得サル片ハ其償ヲ丙ニテ拂ハサルヘカ

ラス

丙ニテ訟庭ヲ去リタルトキハ甲カ壊ル壊ラサ

ルニ関セス之レヲ甲ヨリ償ハサルヘカラス

トスト云フコトナリ

尤モタトヘ甲ニテ拂ヒタル上弥々丙トノ壊リ

タルコトナルトキハ端ヲ更メテ甲ヨリ丙ニ批



リテ訴ヲ為スナリ

如シ丙ニテ壞リタルニ甲拂フコトヲ得サルトキハ乙ヨリ丙ニ對シテ訴ヲ為スナリ之レハ民法ノ第一千百六十六條ニヨリテ之レヲ訴フルナリ

此四項ハソノ損害ヲ保証人ニテ為レタリヤ否ラサルヤヲ知ルヘカラスルトキアリ仍テ別項ニ置カサルヘカラサルナリ

入費ヲ丙ニ拂ハレムルハ酷ナリト思フナリ何トナレハ根元ハ甲ヨロシカラサルユヘナリ

### 司法省

然ルニソノ訟庭ニ參スル參セサル以テ拂フ拂ハサルヲ區別スルハ酷ナラスヤ

果シテ甲カ壞リタルノ証アルトキハタトヒ丙ニテ訟庭ニ參レタリトモ甲之レヲ出サ、ルヘカラス



司法省



訴訟法會議筆記

八年二月十日  
第三十一

司法省



百八十五條ハ既ニ説キタリ

今日ハ茅百八十六條ヲ説カントス

茅百八十六條

訴訟ノ猶豫ヲ求ムル諸件ハ其訴訟ノ本案ニ付  
キ論辯ヲ為ス前ニ天ニ同時ニ之ヲ述フヘシ  
此條ハ訴訟ノ猶豫ノ期限ヲ求ムル所ニテ故  
障ヲ云フ処ロナリ

之レハ訴訟ノ原由ヲ論辯ナス前ニ云ハサルヘ  
カラサルヲ云フモノナリ

之レマテ説キタル処ロハ故障ヲ云フ順序アリ

### 司法省

此條ニハサノ故障ノ順序ヲ云ハス訴訟ノ先  
因ヲ論辯スル前ニ共ニ云フヘキナリトアリ

裁判ノ管轄ノ違ヒ又ハ外国人原告人ナル時ハ  
請人ヲ立サシムル故障ヲ述ヘタルノ後ニ云  
フヘキ乎又ハ其前ニ云フヘキヤ其順序ヲ云  
ハス然レモ之レ等ノ故障ハ此條ニ云猶豫ノ  
期限ヲ立ルヨリ肝要ナルモノ故必ス前ニ述  
フル順序ニ随ヒ必ス先ニ述フヘシタトヘ相  
続人ニ對其父ノ負債ヲ訴フルニ付其相續人  
ヨリ猶豫ノ期限求ムル時其原告人外国人ナ



レハ請人ヲ立ルノ故障ヲ訴訟ノ本案ニ付辯  
論スル前ニ述ヘ而猶豫ノ期限ヲ求メサル可  
カラス何トナレハ此猶豫ノ期限ヲ求ルコトハ  
前ノ事ニ比較スレバ格別肝要ナルモノニ非  
ラサレハナリ

此法律ニ欠ケアリ

### 第百八十七條

遺物相続人寡婦人ハ離婚セラレシ婦或ハ夫ト  
財産ヲ分チタル片ハ目錄ヲ記シ且熟考ヲ為  
ス期限ヲ終リシ後ニ非サレハ其他ノ諸件ヲ

### 司法省

述ヘテ訴訟ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得ス

第百八十六條ニ云々論辨ヲ為ス前ニ共ニ同時  
ニ之レヲ述フヘシトアレバ第百八十七條ニ  
ハ何日ニハ目錄ニ記シ且熟考ヲ為ス之ヲト  
書イテアルトキハ三月四日ノ期限ハ別  
段ノ求ナルニ及ハサルコト見スル書キ方ナ  
リ

タトヘハ二人ニテ共ニ行コトヲ契約ヲ為スノ一  
人ハ先キへ行ク片ハ他ノ一人ハ同行スルモ  
ノナキ誤ナリ



前條ニハ其ニ同時ニトアリ後條ニハ三ヶ月四  
十日ノ後ニアラサレハトアル然ルモ共ニ  
同ニ求ムルヲ得サルニアラスヤ  
ソノ三ヶ月四十日ハ何レニシテ求メタリヤト  
ナレハ即チソノ手ツ、キヲ以テ求メタルモ  
ノナリ

然ルニ共ニ同時ニトアレ氏一ツノミナリ同時  
ニ求ムルヲ能ハス

猶豫ノ期限ヲ求ムルモノ三ツアレハ都合ヨロ  
シ何トナレハ始メニ三ヶ月四十日ヲ求メラ

### 司法省

ソノ後共ニ同時ニ二ツノ事ヲ求ムヘキナリ  
之レハ全ク古法ヨリ来ルモノナリ古法ニハ猶  
豫ヲ求ムル事ハ五六ヶ条アリタリ

ソノ頃ハ三ヶ月四十日ノ期限ヲ始メニ求メテ  
後ニ三ツモ四ツモ求メタルナリ是レ「ロイナ  
四世ノ法ナリ

之レハ新法中ニソノマ、書キタルモノナリ  
然レニナカラ法律中ニ三ツアリ一ツハ民法中ニ  
アリ

始メニ三ヶ月四十日ヲ求メテ後ニ二ツヲ求ム



ルナリ

之レハ民法千二百二十五條ニアリ

ソノ條ハ分カツヘカラサルノ義務ノナリ

ソノ義務ニ付キ許ヘテ為ニタリソレハ二人又

ハ三人ノ被告人アルナリユヘソノ二人ナ

リ三人ナリ尽ク来ルマテノ猶豫ヲ求ムルナ

リ

要之即チ保証ノ一種ナリ

併通常ノ請人ニ掛テ借主ヲ呼フトハ少シク

違フナレ即チ保証ナリ

### 司法省

仍テケ様ノ訴訟トケ様ノ保証トアリト同時ニ

其猶豫ヲ求メサルヘカラス

或ハ保証人ノ保証人ト沃山ニ保証ノアルトキ

之レヲ區別シテ去ハス一時ニ言フヘシト金

氏之レハ法律中ニソノ正條アルユヘソノナ

トハ違フナリ

第百七十五條ニ保証人数人アルトキハ最モ遠

方ニアルモノ、来ル期限ノ猶豫ヲ求ムルト

キタトヘハソノモノ、来ルニハ三十日ヲ賞

ヤストキ先ツ十五日ヲ求メ更ニ十五日ヲ求



メタリトモ妨ケナキヤウニ見ユレモ此條ニ  
テハツレハナラヌヲナリヤハリ始メヨリワ  
ノ三十日ヲ求メサルヘカラサルヲニ云フナ  
リ  
如シ故障ヲ速フル種々アリテ先ツ三ヶ月四  
十日ヲ求メタル後ニ保証人ノ数人アルトキ  
ハ之レヲ一時ニ求ムヘクシテ一人毎ニ之レ  
ヲ求ムルヲ得スト云フナリ  
第五卷モ即チ一種ノ猶豫ヲ求ムル期限ヲ去フ  
モナナリ

### 司法省

之レハ訴訟ノ求メニハアラス訴訟ノ始マリタ  
ル後ノナリ  
一方ノモノニテ証各ヲ見ントラ請フトキハ之  
レヲ三日内ニ送ルナリ  
ソノ間ニ訴訟ヲ中止スルナリ  
証トハ証書人ハ遺書状請取書ノ類ナリ  
第百八十八條

第五卷 相手方ノ証書類ヲ受取ル事  
原告人又ハ被告人共相手方ノ證書類ノ寫ノ送  
達ヲ得タル時第六十二條見合又ハ相手方ヨリ之レヲ



裁判所ニ出シタル時ヨリ三日内ニ其代各師  
ヨリ相手方ノ代各師ニ各面ヲ送ラシメ相手  
方ノ用ヒタル証各類ノ正本ヲ受取ラント求  
ムルヲ得可シ

之レハ双方ノモノ何レヨリナリトモ之レヲ見  
ンヲ請フヲ得ル即チ代書師ヨリ代各師  
ヘ送ルナリ

リノ書法ハ「レテ」トナリトモ之レヲ裁判所  
ヘハ出サス

此三日ハ互ヒニ証書類ヲ裁判所へ出シタルヨ

### 司法省

リ三日内ナリ此三日ヲ過タレハ求ムルヲ  
得サルニハ「アラス何時ニテモ求ムルヲ得  
ルナリ併シ訴訟ハ中止セスシテ之レヲ日々  
取調フルナリ

此三日ノ内ニ求ムルトキハソノ例ハ訴訟ノ中  
止スルナリタトヒハ日ヲ過クルトモ求ムル  
ヲニハ妨ケナシトモソノ訴訟ハ取調フル  
ナリソノ書面ヲ取替ハシテ為スニ本人ト本  
人ニテ為スニアラス代書師ヨリ代書師へ送  
達スルナリ



証書類ノ本書ヲ代書師ヨリ代書師へ送達シタル上ニ留メ置クトキハソノ受取ヲ取ルナリ或ハ書記ノ局へ行キテ見ルトモアリ私ノ文書ヲ以テ証書ト為スカ又ハ公正ノ証書本書ナルトキハソノ馬ヲ書記局ニテ取ルテ得ルト虽モ其本書ヲ携へ去ルヲ得ス如シ本人ニテ之レヲ許ストキハ格別ナリトス之レハ百八十九條ニアリ

### 第百八十九條

相手方ノ証書類ヲ受取ルニハ一方ノ代書師人

### 司法省

ヨリ相手方ノ代書師ニ受取書ヲ送りテ之ヲ受取リ又ハ相手方ヨリ其証書類ヲ裁判所ノ書記局ニ預ケ一方ノ者書記局ヨリ之レヲ受ケ取ル可シ但シ其証書類ハ別ニ正本アル時又ハ正本ナシト虽モ相手方ノ承諾アル時ニ非サレハ之ヲ他所ニ携へ行ク可カラス裁判所へ証書ヲ出シタルヨリ三日内ト為ス中

即チ裁判中何時ナリトモ之レヲ求ムルトモ妨ケナシトス



三日ヲ過クルトキハソノ訴訟ヲ中止セスシテ  
其訴訟ヲ聽クハ原則ナレモ時ニヨリテ顛フ  
トキハ三日外ナルモ猶豫スルコトアリ  
三日ノ内ニ求ムルコトヲ得ルコトアルモ幾日内ハ  
ソノ証書ヲ持テ居ルコトヲ得ルヤ之レハ書  
トナシ

### 第百九十條

相手方ノ証書類ヲ受取り之レヲ還ス可キ期  
限ハ代書師ノ請取書ヲ以テ之ヲ定メ又ハ証  
書類ヲ受取ル可キコトヲ許シタル言渡書ヲ以

### 司法省

テ之レヲ定ム可シ然シ別段之レヲ定メサル  
時ハ三日内トス

### 此條ハニタコトヲ云フ

相手方ノ証書ヲ見ルコトヲ求メタルトキ之レヲ  
持テ居ルコトヲ得レハ何日間ト裁判所ニテ  
許シ又ハ代書師ニテモソノ期限ヲ定メサル  
トキハ法律ヲ以テ三日内トス

時ニヨリテソノ証書ヲ見ルコトヲ求メタリトモ  
ソノ証書ハ所要ナルコトニアラスシテ從タル  
モノ、証ナルトキハソノ裁判ヲ中止セサル



トモアリ

見シトテ請フモノニテ二日ト云ヘハソノ裁判  
ヲ二日ノ間中止スルマテナリ

巴里ノ如キ繁雜ノ所口ニテハ延引ノトニ付テ  
ハ甚タ嚴ナラス人民モ格別之レヲ論スルモ  
ノモナシ

然レ凡ソノ間裁判官ハ遊行ナリトモ為スヤト  
ナレハ否ラスソノ間ニ他事ヲ為シ居ルナリ  
故ニ裁判官ハ却テ喜フナルヘシ

再日裁判ニ取り掛ルハ格別苦惱ナルトハナシ

### 司法省

ト虽モソノ証唇ヲ代書師ニテ返サ、ルトキ  
ハ心配ナリ仍テ後條ニ之レヲ定ムルナリ

### 第百九十一條

其期限ノ終リテ後代書師其受取タル証書類ヲ  
還サ、ル片ハ相手方ノ願書ニ因リ又ハ相手  
方ノ覺書ノミニ因リ其代書師直チニ其証書  
類ヲ還ス可ク若シ之レヲ還サ、ルハ禁錮ヲ  
受ク可シトノ言渡ヲ得ヘシ又其代書師ハ其  
渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ後其証書類ヲ還  
スヲ遲延シタル日毎ニ相手方ニ償トシテ三



「フ」ラシク「」ヲ拂ヒ且相与方ノ願書及ヒ其言渡  
書ニ付テノ費用ヲ拂フ可シ但シ其代書師ハ  
其償及ヒ費用ヲ後ニ本人ヨリ己レニ償還セ  
シムルヲ得ス

若シ期限ノ来リタリトモ代書師ニテ証書ヲ返  
サ、ルトキハ之レヲ願ヒテソノ証書ヲ取リ  
戻スヲ得ルナリソノ願書ハ單一ナル書キ  
付ケニテ即チ「」ケ「」トナリ

其返サ、ル代書師ハ禁錮<sup>拘留</sup>ヲ云ヒ渡サルヲアリ  
覺書トハ一ト通りノ事柄ヲ書キタル書キ付ケ

### 司法省

ナリ  
其本書ハ使吏ノ手ニアリテ即チ裁判所へ出ス  
書キ付ケナリ

民事ノ「」ニ付テハ禁錮ヲ為シテ償等ヲ拂ハシ  
ムルヲハ廢シタリ

今ハ刑事ノ償罰金等ノミニ付キ禁錮スルマテ  
ナリ

此所口ニテハ禁錮スヘキヤトナレハ之レヲ為  
スヲ得ス何トナレハ罪ハ絶テ無ク只々民  
事ノ過チナリ



代書師ハソノ言渡書ニ付テ費用ヲ拂ハサルヘ  
カラズ本人ハ之レヲ拂フニ及ハス

ヨシヤ本人ニテ代書師ヨリ受取りヲ取調ヘタ  
ルニツキ遅延シタリトモ本人ニテ之レヲ拂

フニ及ハス代書師ニテ之ヲ拂フヘシトス  
法律ニテハソノ償戻シテ代書師ニテ本人ニ乞

フヲ得サルヲナレバ必ラス本人ニテ為シ  
タル遅延ナル片ハ之レヲ償フナルヘシ

第百九十二條ハ代書師ヨリ証書ヲ返サ、ルト  
キハソノ代書師ヲ取調ヘスシテ禁錮ヲ言渡

### 司法省

ストキソノ代書師ニテ故障ヲ述フルコアリ

ソノトキハ場合ニヨリテ之ヲ許スコアリ

ソノトキハ通常ノ法式ニ循ハス双方書キ付ケ

ヲ以テス只急速吟味ノ手續ヲ以テ之レヲ處

分スルコアリ

若シ故障ヲ云ヒテソノ故障ノ悪シキトキハ其

負ケタル後ノ費用ヲモ拂ハサルヘカラス

若シソノ他ニ償ヲ拂フヘキト云ハ之レヲモ拂

ハサルヘカラス

若シソノ証書類ナケレハ大イニ他ノ事件ニモ



損害ヲ生シタルトキハソノ償ヲモ拂ハサル  
ヘカラス

第百九十二條

若シ代書師此言渡ニ付キ故障ヲ述フル中ハ至  
急吟味ノ法式ヲ以テ之レヲ裁判スヘシ但シ  
其代書師負訴訟ノ中ハ其訴訟ノ費用ヲ拂ヒ  
又ハ其時ノ景状ニ從ヒ相當ノ償ヲ拂ヒ且相  
當ノ罰ヲ受ク可キノ言渡ヲ受ケ可シ  
且相當ノ罰ヲ受クルトハ規律罪ノ一ヲ云フ  
之レマテニテ故障ヲ述フルトハ濟ミタルナリ

司法省

之レマテハ訴訟ニ付テテ格別面倒ナルトハナ  
シ以下ハ随分面倒ナルトナリトス

書記使吏代書師等ノ規律法ハ總テ民事裁判所  
ニテ直々ニ之レヲ言渡スモノナリ

以上ノ証拠ニカ、ルコトナリ民法ニテ未タ読マ  
サルユヘ暫ラク之レヲ置キ此次ハ第三百三  
十七條ヨリ之レヲ始メント欲ス



